

平安京左京三条四坊四町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京三条四坊四町跡

2003年

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しております。また、平安京遷都以来今日に至るまで都市として永々と生活が営まれてきており、各時代の生活跡が連綿と重なり合っています。都であるゆえに、そこから発見されるその一つ一つは、日本の歴史を語るうえで欠くことのできないものとなっています。

財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、こうした遺跡の発掘調査を通して京都の歴史の解明に取り組んでおります。その成果を市民の皆様に広く公開し活用いただけるよう進めていくことが研究所の責務と考えております。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、出土遺物の小・中学校や公的施設での貸出展示、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところであります。

さて、当研究所では従来各年度毎で報告してまいりました「京都市埋蔵文化財調査概要」を改め、平成13年度調査分より各調査箇所毎に1冊の報告書として発刊しております。その第10冊目として、このたび公共施設建設に伴います平安京跡の発掘調査の成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示たまわりますようお願い申し上げます。

末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援をたまわりました関係者各位に厚くお礼ならびに感謝を申し上げる次第です。

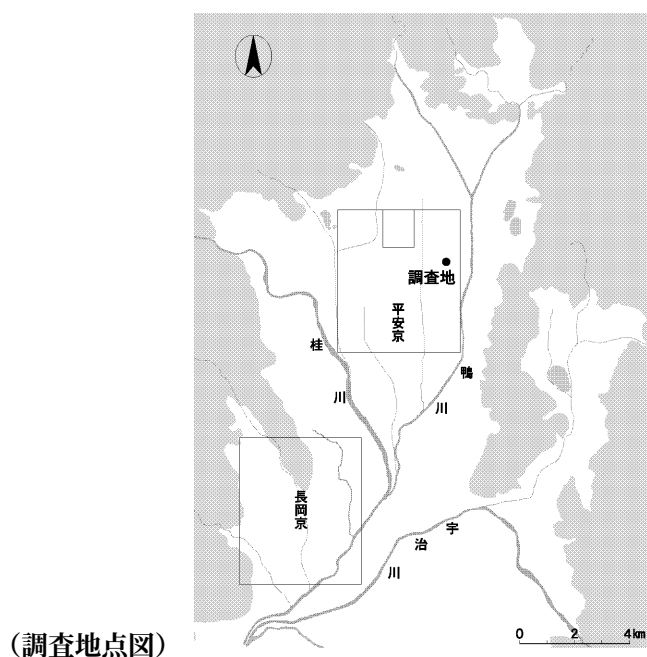
平成15年1月

財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

所 長 川 上 貢

例 言

- | | |
|----------|---|
| 1 遺 跡 名 | 平安京左京三条四坊四町跡 |
| 2 調査所在地 | 京都市中京区東洞院姉小路東入曇華院前町 |
| 3 委 託 者 | 京都市 代表者 京都市長 梶本頼兼 |
| 4 調査期間 | 2001年6月7日～2002年2月13日 |
| 5 調査面積 | 約980m ² |
| 6 調査担当者 | 上村憲章・鎌田泰知 |
| 7 使用地図 | 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「三条大橋」を参考にし、作成した。 |
| 8 使用測地系 | 日本測地系（改正前）平面直角座標系VI（ただし、単位（m）を省略した） |
| 9 使用標高 | T.P.：東京湾平均海面高度 |
| 10 使用基準点 | 京都市が設置した京都市遺跡発掘調査基準点（一級基準点）を使用した。 |
| 11 使用土色名 | 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。 |
| 12 遺構番号 | 調査区ごとに通し番号を付し、遺構種類を前に付けた。 |
| 13 遺物番号 | 挿図の順に通し番号を付した。 |
| 14 掲載写真 | 村井伸也・幸明綾子 |
| 15 基準点測量 | 宮原健吾 |
| 16 遺物復元 | 村上 勉・出水みゆき |
| 17 本書作成 | 上村憲章・鎌田泰知 |
| 18 編集・調整 | 児玉光世 |



目 次

1. 調査経過	1
2. 周辺の調査	2
3. 遺 構	3
4. 遺 物	9
5. ま と め	22

図 版 目 次

図版 1	遺構	1 東区第 1 面全景（北から）
		2 西区第 1 面全景（東から）
図版 2	遺構	1 東区第 2 面全景（北から）
		2 西区第 2 面全景（東から）
図版 3	遺構	1 東区SE48（南から）
		2 東区SE79（東から）
		3 東区SE94（北から）
		4 東区SE196（西から）
		5 東区SE218（北から）
		6 東区SE211（南から）
		7 東区SE133（東から）
		8 東区SE123（北から）
図版 4	遺構	1 西区SE 3（北東から）
		2 西区SE77（北から）
		3 東区SK51（北東から）
		4 東区SK44（北東から）
		5 東区SK52・71（北東から）
		6 東区SK74（北から）
		7 東区SK73（西から）
		8 東区SK175（北から）
図版 5	遺構	1 東区土層堆積状況（東壁）
		2 西区土層堆積状況（南壁）

- 図版6 遺物 東区SE7・東区SK44・東区SE238出土土器
- 図版7 遺物 東区SE238出土土器
- 図版8 遺物 東区SE238・東区SE211・西区SK51出土土器
- 図版9 遺物 西区SK51出土土器
- 図版10 遺物 東区SE123出土軒瓦

挿 図 目 次

図1	東区調査前全景（東から）	1
図2	西区調査前全景（南西から）	1
図3	調査位置図（1：2,500）	2
図4	東区南壁断面図（1：80）	3
図5	第1面実測図（1：250）	4
図6	第2面実測図（1：250）	5
図7	東区SE48・133・196、西区SE3実測図（1：40）	6
図8	東区SK74華南三彩出土状況（東から）	7
図9	西区SD32A（北から）	9
図10	東区SE7出土土器実測図（1：4）	9
図11	東区SK74出土華南三彩盤実測図（1：4）	10
図12	東区SK74出土華南三彩盤	10
図13	東区SK44炭屑出土土器実測図（1：4）	11
図14	東区SK44下層出土土器・金属製品実測図（1：4）	12
図15	東区SK51上段出土土器実測図（1：4）	13
図16	東区SK51下段出土土器実測図1（1：4）	14
図17	東区SK51下段出土土器実測図2（1：4）	15
図18	東区SE238上層出土土器実測図（1：4）	15
図19	東区SE238中層出土土器実測図（1：4）	16
図20	東区SE211出土土器実測図（1：4）	17
図21	西区SK51中層出土土器実測図（1：4）	18
図22	西区SK51下層出土土器実測図（1：4）	19
図23	東区SK419出土土器実測図（1：4）	20
図24	東区SE123出土瓦拓影（1：3）	21
図25	東区SE2出土敷磚	21
図26	東区SE2出土軒丸瓦	21

表 目 次

表 1	左京三条四坊四町調査一覧表	2
表 2	遺構概要表	8
表 3	遺物概要表	12

付 表 目 次

付表 1	東区SE 7 出土掲載遺物一覧表	23
付表 2	東区SK74出土掲載遺物一覧表	23
付表 3	東区SK44炭層出土掲載遺物一覧表	23
付表 4	東区SK44下層出土掲載遺物一覧表	23
付表 5	東区SK51上段出土掲載遺物一覧表	24
付表 6	東区SK51下段出土掲載遺物一覧表	25
付表 7	東区SE238上層出土掲載遺物一覧表	26
付表 8	東区SE238中層出土掲載遺物一覧表	26
付表 9	東区SE211上層出土掲載遺物一覧表	26
付表10	東区SE211井筒内出土掲載遺物一覧表	26
付表11	東区SE211掘形出土掲載遺物一覧表	27
付表12	西区SK51中層出土掲載遺物一覧表	27
付表13	西区SK51下層出土掲載遺物一覧表	27
付表14	東区SK419出土掲載遺物一覧表	28
付表15	東区SE123出土掲載遺物一覧表	28

平安京左京三条四坊四町跡

1. 調査経過

1993年統廃合により閉校となった元初音中学校敷地内、グラウンド西側に京都市「子どもカウンセリングセンター（仮称）」が建設されることとなった。今回の調査はそれに先立つものであり、平安京の条坊では左京三条四坊四町の北西部にあたる。同町内に於ては1975年以来、古代学協会、京都文化財団などによって6回にわたる調査が実施されており、今回で7回目の調査となる。建物建設範囲に従い736㎡（東区）、その北西側に240㎡（西区）の2ヶ所の調査区を設定した。

当該調査地点の位置する四町では、西側4分の1町については10世紀後半の土地売券が残っている。平安時代後期（12世紀後半）には、後白河法皇の第2皇子である以仁王の邸宅とされる高倉宮があった。以仁王が平家追討の令旨を発したことにより、平氏政権に追われ宇治川の合戦で破れるという件は平家物語でも著名である。13世紀に入ってから、同町はいくつかの宅地に分割され、右近衛中将藤原成定の邸宅、故大膳大夫平業忠の遺邸、入道三品源頼兼の邸宅が存在したことが知られている。中世から近世には瑞雲山通玄寺曇華院が存在したことが文献により明らかとなっている。通玄寺曇華院は、順徳天皇孫四辻宮尊雅王の娘智泉聖通を開祖に14世紀後半に成立、幕末まで当地にあり、明治初年に嵯峨野に移転している。その後、集書院が置かれるなどするが、明治26年に柊町より初音尋常小学校が当地へ移転、現在に至る。

以上のように、文献の上では平安時代の前期や11世紀から12世紀前半にかけて空白はあるものの、土地利用の変遷が比較的明らかな地域でもある。

平安京の条坊遺構については、西区の西端で東洞院大路の東築地跡が推定された。

今回の調査では、高倉宮に直接結びつく遺構は確認できなかったが、平安時代後期の井戸などは確認できた。曇華院成立以降に遺構、遺物とも量が確実に増していく傾向をつかむことができた。また、1975年に古代学協会により実施された中京郵便局の調査で見つかった東洞院大路推定部分の東側に掘られた溝の追跡調査も行うことができた。



図1 東区調査前全景（東から）



図2 西区調査前全景（南西から）

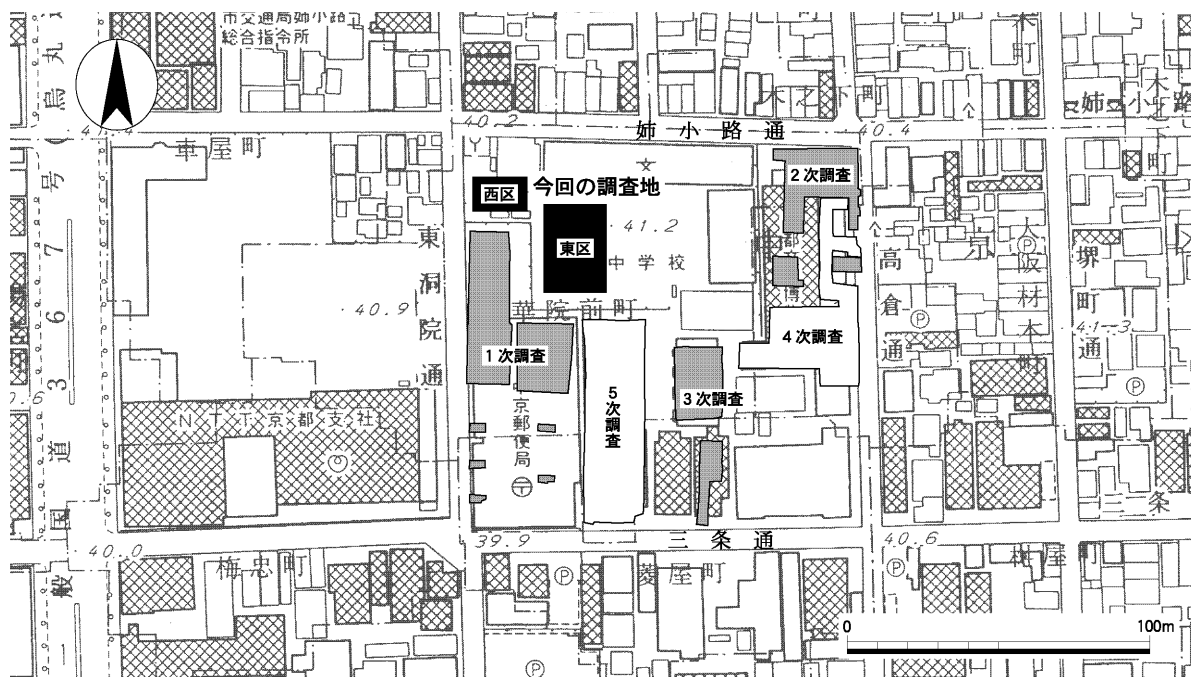


図3 調査位置図（1：2,500）

2. 周辺の調査

東洞院通、三条通、高倉通、姉小路通に囲まれた地区が、平安京の町割りである左京三条四坊四町にほぼ重なる。同町内では昭和50年（1975）より6回にわたる調査が実施され、1～5次調査の調査報告が刊行されている。以下それぞれの調査の概要について述べる。

1次調査 東洞院大路の東側溝と考えられる溝を検出し、当時誤差の大きかった平安京の条坊復元モデルの誤差修正に成果をあげた。しかし、後に（財）京都市埋蔵文化財研究所の調査成果に基づく座標計算による条坊復元モデルと比較すると、東洞院大路東側溝推定位置より2～3m東に位置することがわかった。

2次調査 現在の京都文化博物館敷地の北半部分の調査で、南北方向西面から東西方向南面でL字形に曲がる江戸時代の石垣を発見する。また平安時代から鎌倉時代頃の高倉小路の西側溝と思われる溝を確認している。

表1 左京三条四坊四町調査一覧表

調査回数	調査期間	報告書
1次調査	昭和50年3～11月、 昭和51年2～3月	『東洞院大路・曇華院跡』平安京跡研究調査報告第3輯 財団法人古代学協会 1977年
2次調査	昭和52年4～7月	『平安京高倉宮・曇華院の発掘調査』財団法人古代学協会 1979年
3次調査	昭和56年3～5月	『平安京高倉宮・曇華院跡』平安京跡研究調査報告第8輯 財団法人古代学協会 1983年
4次調査	昭和61年6～10月	『高倉宮・曇華院跡第4次調査』平安京跡研究調査報告第18輯 財団法人古代学協会 1987年
5次調査	昭和62年2～6月	『平安京左京三条四坊四町（京都市中京区曇華院前ノ町）』京都文化博物館（仮称）調査研究報告第2集 京都文化財団 1988年

3次調査 中・近世の遺物が出土した。江戸時代の遺構に削られている部分が大きく、三条大路、高倉宮、曇華院関連と思われる遺構は発見できていない。

4次調査 高倉小路の西側溝と思われる溝を確認している。また、寛永十四年（1637）洛中絵図に記載のある堀を検出している。江戸時代の溝から元文年間から文政元年（1736～1818）にかけて鑄造された「元文小判」が折りたたまれた状態で出土している。

5次調査 平安時代後期から各時代にわたる遺構を検出し、調査区南部分では三条大路の北側溝を発見している。また、縄文時代晩期の突帯文土器がまとまって出土し、縄文時代中期、同後期、弥生時代前期、同中期などの土器も少量ながら出土している。これは周辺調査とはまったく違う様相であり注目された。

3. 遺 構

調査区は直角座標系VIの方位にあわせて設定した。土層の状況を東区南壁断面でみると、1～4層は明治時代以降の盛土で、学校の校舎改修築などの時に入れられたものである。1層は山砂で現在のグラウンドを形成するものである。現表土は標高41.25m前後を測る。5層は出土遺物から江戸時代後半期のもので、5層直下の面は江戸時代中期から後期にかけてのものと考えられる。面の下には江戸時代中期頃に入れられたと思われる整地層群6～14層が堆積し、15層とした焼土層がある。15層と30層の焼土層との間に、江戸時代前期から中期の整地層群16～24層がみられる。15層の焼土が被る面は江戸時代中期の面と思われる。30層の焼土が被る面は江戸時代

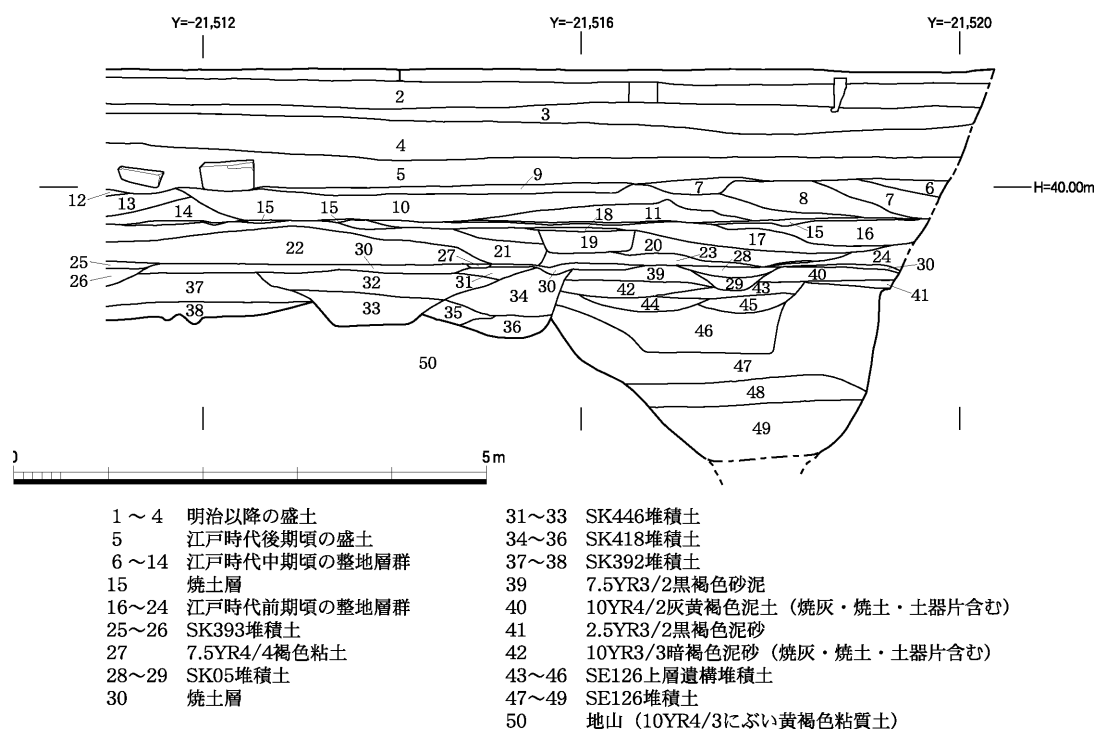


図4 東区南壁断面図（1：80）

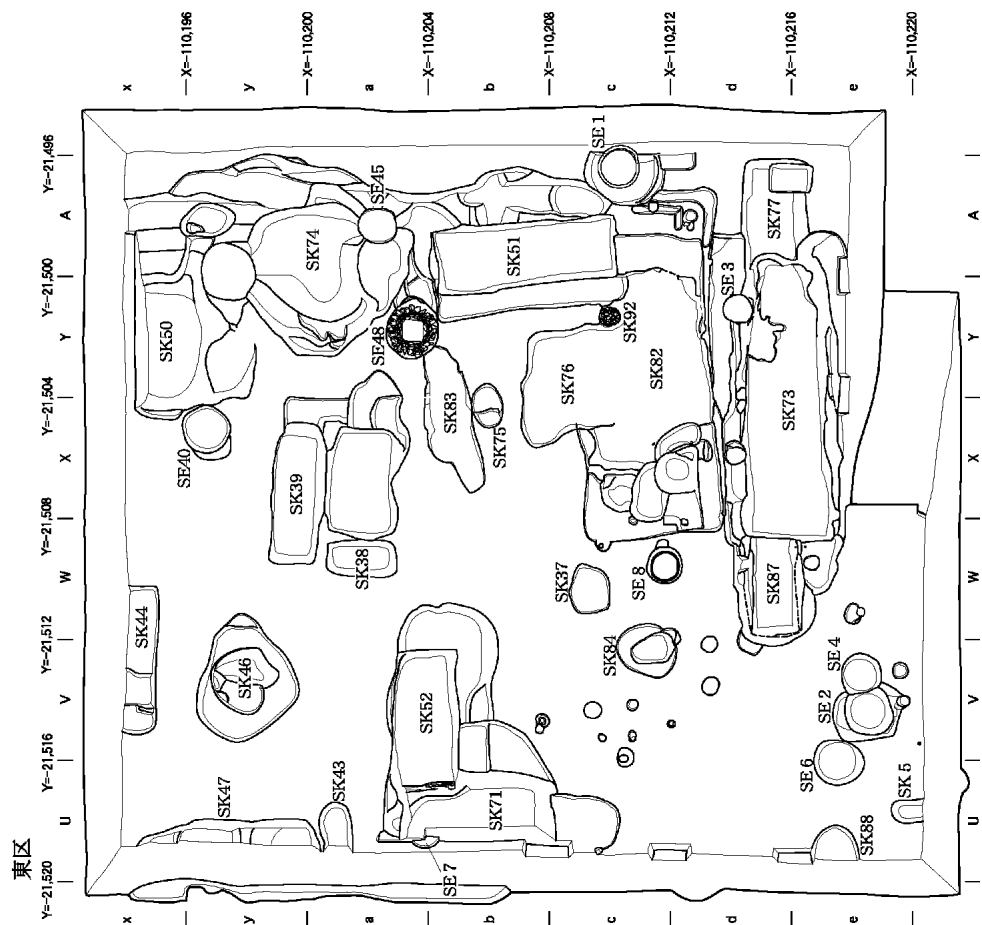
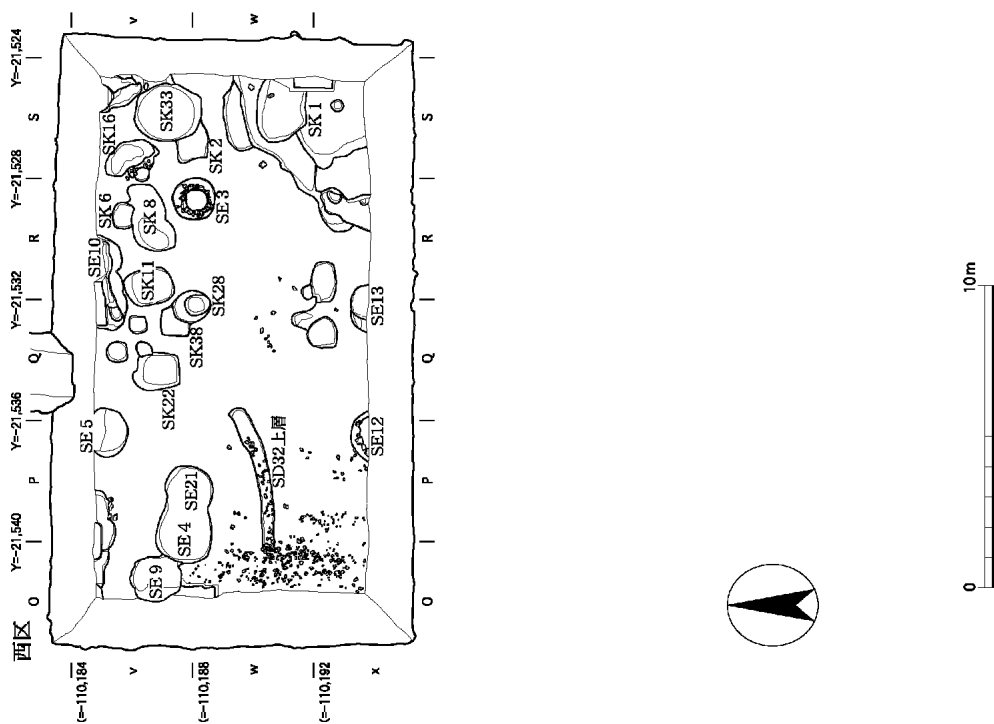


图5 第1面実測図 (1 : 250)

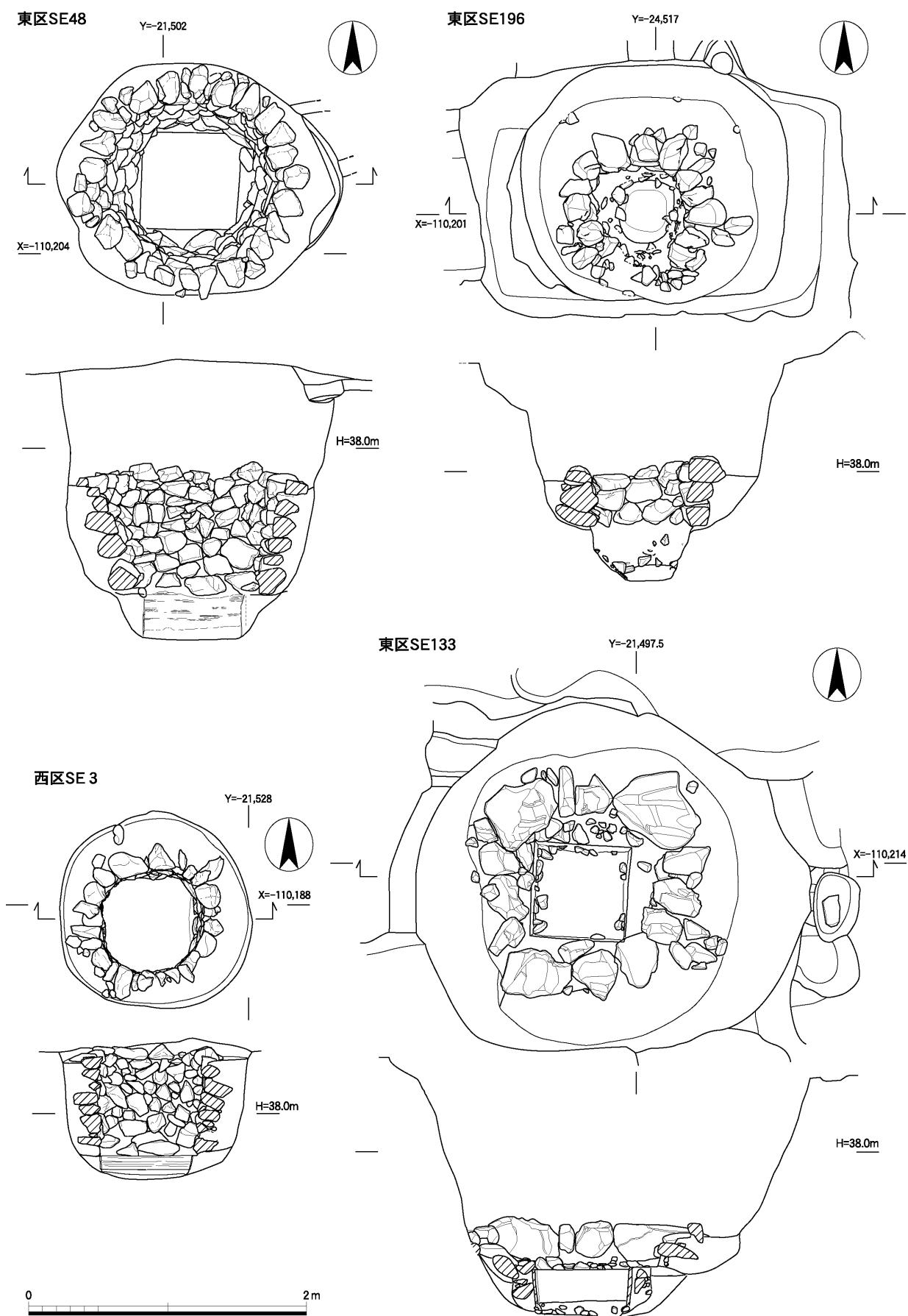


图7 東区SE48・133・196、西区SE 3实测图（1：40）

前期頃と考えられる。それ以下にも部分的に地山面との間に桃山時代から江戸時代前期の遺物を包含する整地土層39～42層が堆積する。第1面とした遺構面は、この整地土層を掘り下げた段階で、桃山時代から江戸時代以降の遺構を調査したものである。第2面は古代から中世の遺構の調査をしたものである。地山面は東区では北東から南部にかけてが最も高く、標高38.6～7mで、北西にむかい徐々に低くなる傾向が見られるが、西区では標高38.4～5mとその差はさほど大きくはない。地山と考えている自然堆積層も断ち割り調査を実施したが下層からは遺構・遺物などの痕跡は確認できなかった。地山は基本的に黄褐色系（一部では下層が濃褐色となった部分もある）の砂泥層で、厚さは最大で1m前後あり調査区全面に確認できる。調査区北東、北西部分ではその下層の礫層が表面に出ている部分も見られた。

第1面（図5、図版1）

第1面では、東区の土壌SK44やSK50・51・52・71・73・74のような江戸時代前半の大型の遺構が目につく。いずれの遺構からも多量の遺物が出土している。

東区SK44（図版4-4）は、東調査区の北西部でその一部を検出したもので、全形は不明であるが東西幅4.9mを測る。炭の堆積が見られ、底部は標高38.5m前後である。東区SK51（図版4-3）は、南北約6m、東西約3mの長方形の掘形をもち、底部は西側で幅0.7mの東側より約0.35m高い段がつく。東側底部は標高38.0m前後である。東区SK74（図版4-6）は、その北側で検出したもので、東西幅は約6.2mあり、底部は不整形で一番深いところで標高37.74mを測る。南側の斜面から華南三彩の盤がほぼ完形で出土した（図8）。さらにその北側に東区SK50を検出している。調査区北壁沿いに検出したもので、東西幅は4.8mあり、底部は標高37.9mである。東区SK52・71（図版4-5）は、調査区西側で検出したもので、東区SK52は東西4.7m、南北2.4mの長方形で、底部は標高37.75m、東区SK71は南北5.1m、東西2.3m以上、底部は標高37.65mである。東区SK73（図版4-7）は、調査区南部で検出された大型の遺構で、東西9.4m、南北3.3m、底部は標高37.9mを測る。東区SK52・71・73とも、水が溜まって堆積したものとみられるシルト質の土層が観察された。

井戸は15基確認でき、このうち東区SE1としたものは漆喰の井戸側を持つもので、出土遺物や校舎の配置図などから初音中学校の井戸であったことがわかった。東区SE8は埴組み、東区SE7、東区SE48（図7、図版3-1）、西区SE3（図7、図版4-1）、西区SE12は石組みの施設をもつ。このうち東区SE7および西区SE3は、底部が地山の透水層まで達してはおらず、井戸ではない可能性もある。東区SE2は江戸時代前半期に埋没した井戸で、焼土とともに多量の敷埴が投棄されていた。



図8 東区SK74華南三彩出土状況（東から）

第2面（図6、図版2）

第2面では、井戸や土壇、Pit（柱穴）、溝などを多数検出している。

東区SE442は調査区南西部で検出した井戸で、壁際のため全形、施設などは不明であるが、IV期新の土器類がまとまって出土しており、今回の調査で確認された遺構で最も古く位置づけられるものである。東区SE79（図版3－2）、東区SE123（図版3－8、底部標高36.65m）や西区SE77（図版4－2、底部標高36.90m）は、方形の横棧縦板組の枠と底部に曲物を設置した井戸で、平安時代後期のものである。東区SE133（図7、図版3－7）は、底部に横板の方形の枠を設置し、その上に1段の石組みを設置した井戸で、鎌倉時代に埋没している。東区SE126も鎌倉時代に埋没した井戸であるが、調査区の壁際であったため施設などは不明である。東区SE211（図版3－6）は、縦板を11枚組み合わせた井戸側と、底部（標高36.64m）に方形の横板組の枠を設置した井戸で、14世紀の中頃から後半代にかけて機能していたものと思われる。井戸枠内から多量の土器類とともに、鉄滓などが出土している。東区SE270も底部（標高36.35m）に桶状の木枠を検出した。この井戸は14世紀末から15世紀前半くらいに埋没している。東区SE238（底部標高36.20m）は、板などは抜きとられているようで施設の痕跡は確認できなかったが、15世紀後半代に埋没していて、これも多量の土器類が出土している。東区SE94（図版3－3、底部標高36.02m）、東区SE196（図7、図版3－4）、東区SE293は石組みを有する16世紀代の井戸である。東区SE218（図版3－5）は、底部（標高36.65m）に桶の痕跡を確認している。掘形から見て石組みがあった可能性がある。これも16世紀代に埋没している。

西区の調査区西端で確認した西区SD32A（図9）は南北方向にのびる溝で、南部分で幅約2m、深さ0.8m（標高37.45m）を測るが、調査区中程で段がつき、北側では浅くなり幅も狭くなる。また西区SD32Bとしたものは西区SD32Aに東側から流れ込む溝で、取り付け部付近で一段深くなる。西区SD32Aは1975年調査（1次調査）で見つかった「溝1」につながるものである。埋没は16世紀代で、平安時代から存続した東洞院通に沿って室町時代後期に設けられた堀であろうと思

表2 遺構概要表

時 代	遺 構	
	東 区	西 区
平安時代中期～後期	SE79・123・442、SK419	SE77
鎌倉時代	SE126・133	
室町時代前半	SE211・270	SK51
室町時代後半	SE94・196・218・238・293、SD181	SD32A・32B
桃山時代～江戸時代前期	SE2・48、SK44・50～52・71・73・74	SE3
江戸時代以降	SE7	

われる。当研究所の条坊復元モデルからみると、平安時代の東洞院大路東側築地部分にあたる。

このほかにも数条の溝を東区で検出している。東区SD172と東区SD181は途中で途切れて検出されたために別番号を付したが、同一の南北方向の溝と判断している。底部の標高を比較すると、北側の東区SD172の北部が東区SD181よりも約0.4mほど低くなっている。東区SD152は東西方向の溝で東区SK52に切られているため、西側に延長するものかどうかは不明である。西区SD32Bも含め何らかの区画を意図したものであろう。



図9 西区SD32A（北から）

これらの遺構の他に柱穴と思われるPitも多数検出されており、各時代のものがあるが、曇華院が成立して以降の時期のものが圧倒的に多い。中には、先に述べた溝に平行して並びが確認できるものもある。

4. 遺物

平安時代以前の遺物は極めて少なく、7世紀後半から8世紀初頭くらいと思われる須恵器の長頸瓶の破片が確認できる程度である。平安時代の前半代遺物も少量認められるが、いずれもそれより新しい遺構や層に混入して出土したものである。平安時代後期以降、徐々に遺物の量も増加の傾向をたどる。曇華院が成立する14世紀後半以降からは著しい増加となる。

東区SK419からはV期、東区SE211・西区SK51からはVII～VIII期、東区SE238からはIX期、東区SK170・171からはX期、東区SK50・51・71からはXI期からXII期にかけての¹⁾良好な一括資料が出土している。ここでは図示したものについて、その内容を記す。

東区SE7出土遺物（図10）

東区SE7からは、土師器皿1～22、染付磁器碗23・24、京焼系の碗、鉄釉陶器の碗、焼締陶器甕、棧瓦などが出土している。土師器皿はNrタイ

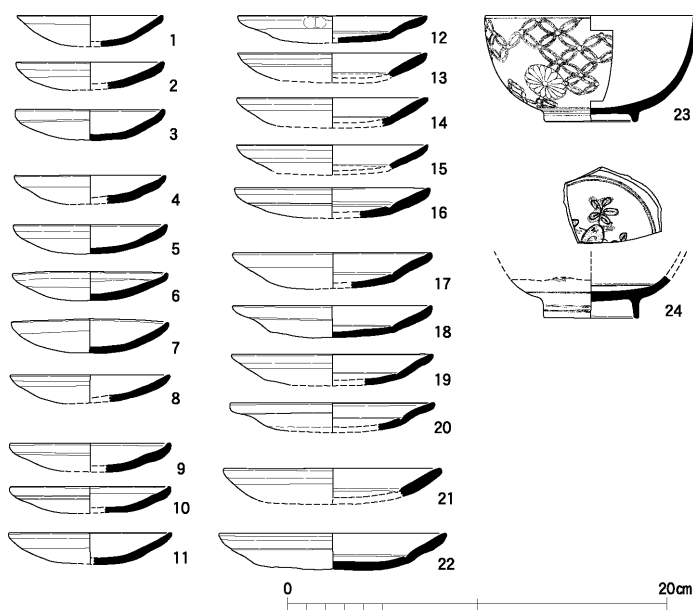


図10 東区SE7出土土器実測図（1：4）

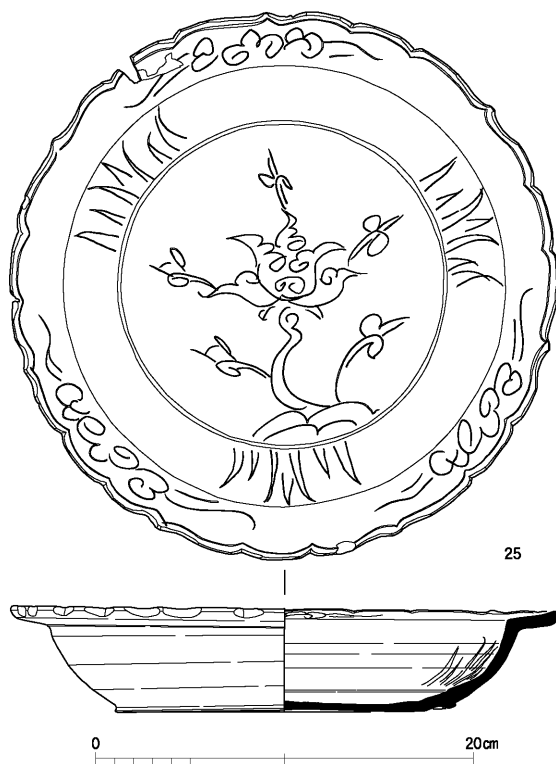


図11 東区SK74出土華南三彩盤実測図（1：4）



図12 東区SK74出土華南三彩盤

東区SK51出土遺物（図15～17）

東区SK51は西側が一段高くなっており、西側の底部と同じ高さまでを上段、東側の一段低い部分から出土したものを下段として扱っている。それぞれの出土遺物について述べる。

上段からは、土師器皿Nr115～123・皿Sb125～136・皿S137～186・塩壺189～190・塩壺蓋

ブを欠く資料で、1～11が圈線を持たないSbで、12～22が圈線を持つSタイプである。Ⅱ期古の新相を示す土器群と考えられる。

東区SK74出土遺物（図11・12）

東区SK74から出土した華南三彩の盤25は、16世紀頃に日本にさかんに輸入されたものとされ、京焼の成立や近世陶器に大きな影響を与えたといわれるもので、京都市内では数例の出土が知られている。高台は削り出しで、高台内は露胎となっている。文様は草花文を線刻する。全体に白泥を高台の内側まで施し、緑の鉛釉を主体とし、文様部分に黄色と褐色の釉をかけ分ける。

東区SK44出土遺物（図13・14）

東区SK44は上層の炭層と、その下層より出土した土器群とに分けて報告する。

炭層からは、土師器皿26～77・碗78・涼炉79・焙烙鍋、焼締陶器皿80・播鉢・鉢、瓦器火鉢、唐津銅緑釉碗81、伊万里白磁碗82、染付磁器碗83～88、京焼系陶器皿89などが出土している。土師器皿はNrタイプは出土しておらず、26～33がSb、34～77がSタイプである。Ⅱ期古の新相を持つ土器群である。

下層からは、土師器皿90～111・焙烙鍋、瓦器火鉢、焼締陶器甕、伊万里白磁碗112・掛分天目茶碗113、京焼系陶器碗、瓦、敷壇、銅製小匙114などが出土している。炭層と同様、土師器皿のNrは出土していない。90～93がSb、94～111がSタイプである。Ⅱ期古に比定できる土器群である。

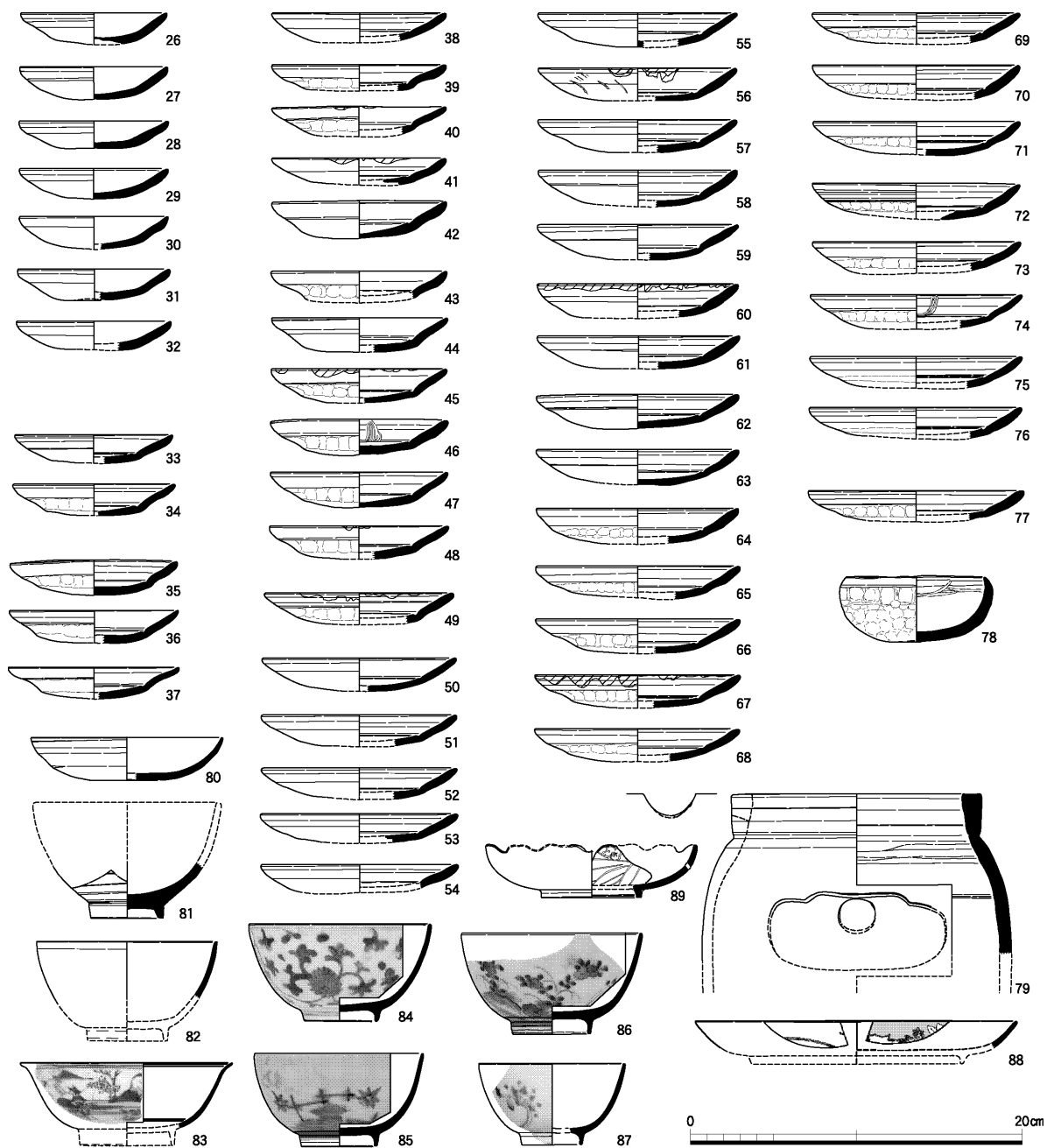


図13 東区SK44炭層出土土器実測図（1：4）

187～188・小壺191・焙烙鍋193・羽釜、瓦器鉢192・瓦灯蓋194・火鉢、焼締陶器信楽搦鉢215・備前搦鉢・丹波搦鉢・甕・德利、唐津皿195～196・椀197、美濃瀬戸系小椀198・天目茶椀202～203、志野皿199～201、黄瀬戸向付204、伊万里染付椀207～208、210、213・染付德利214・青磁椀205・青磁稜花皿206・白磁椀211～212、輸入陶磁器染付椀209、瓦類、鉄釘、砥石片、銭貨などが出土している。XI期新の様相を持つ土器群である。

下段からは、土師器皿Nr216～222・皿Sb223～240・皿S241～293・皿（小杯）294・小浅鉢295・小壺296～297・高杯か298・塩壺蓋299・塩壺300～301・焙烙鍋302～304、瓦器火消壺蓋305・火消壺306・火桶307・瓦灯308、焼締陶器丹波搦鉢331・信楽搦鉢332・甕・壺・盤、唐津

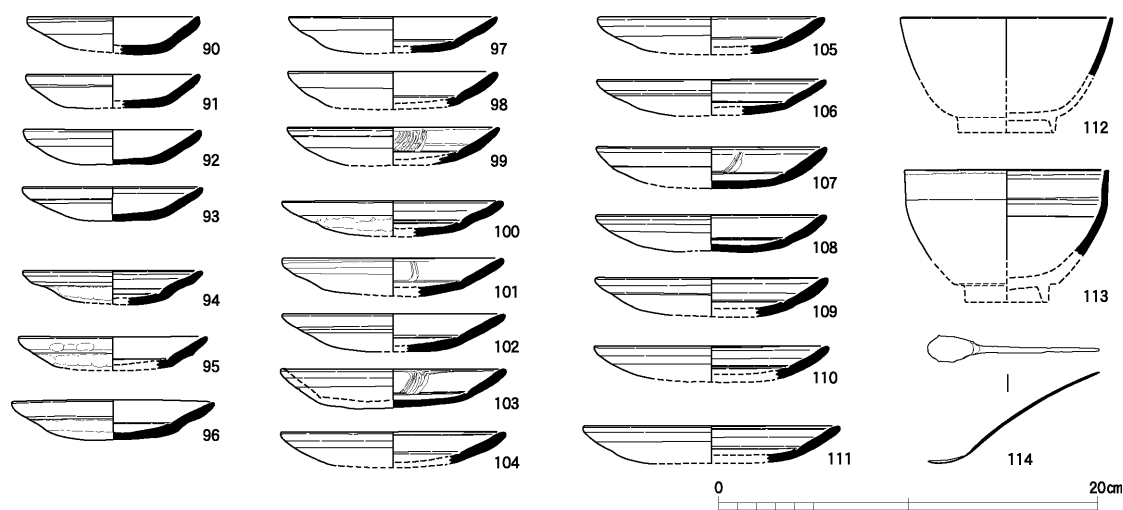


図14 東区SK44下層出土土器・金属製品実測図（1：4）

皿322～326・小椀327・椀328～329・片口付鉢330、美濃瀬戸系天目茶椀317・灰釉折縁皿318・卸目皿、志野椀316・皿319、織部小椀320・向付321、黄瀬戸鉢、輸入陶磁器染付椀309～313・白磁椀314・掛分椀315、瓦類、敷塼、鉄釘、砥石片、硯片などが出土した。XI期中の最新様相を持つ土器群である。

東区SE238出土遺物（図18・19）

東区SE238からも良好な一括資料が出土した。上層から出土したものと中層から出土したものについて報告する。

表3 遺物概要表

時 代	内 容	コンテナ 箱数	Aランク点数	Bランク 箱数	Cランク 箱数
平安時代中期 ～後期	土師器、須恵器、緑釉陶器、 灰釉陶器、黒色土器、白色 土器、瓦器、輸入白磁、瓦 類		土師器64点、軒丸瓦6点、軒平瓦 3点		
鎌倉時代	土師器、白色土器、瓦器、 須恵器、焼締陶器、輸入陶 磁器、滑石製品、瓦類				
室町時代前期	土師器、瓦器、須恵器、焼 締陶器、輸入陶磁器、瓦類		土師器111点、瓦器10点、須恵器 3点、焼締陶器1点、施釉陶器4 点、輸入陶磁器10点		
室町時代後期	土師器、瓦器、須恵器、焼 締陶器、施釉陶器、輸入陶 磁器、瓦類		土師器74点、瓦器3点、施釉陶器 2点、華南三彩1点		
桃山時代～ 江戸時代前期	土師器、瓦器、須恵器、焼 締陶器、施釉陶器、染付、 瓦類		土師器243点、瓦器6点、焼締陶 器4点、施釉陶器28点、磁器6点、 染付11点、輸入陶磁器8点、軒丸 瓦1点、塼9点、銅製品1点		
江戸時代以降	土師器、施釉陶器、染付、 瓦類		土師器22点、染付2点		
合 計		478箱	633点（27箱）	50箱	401箱

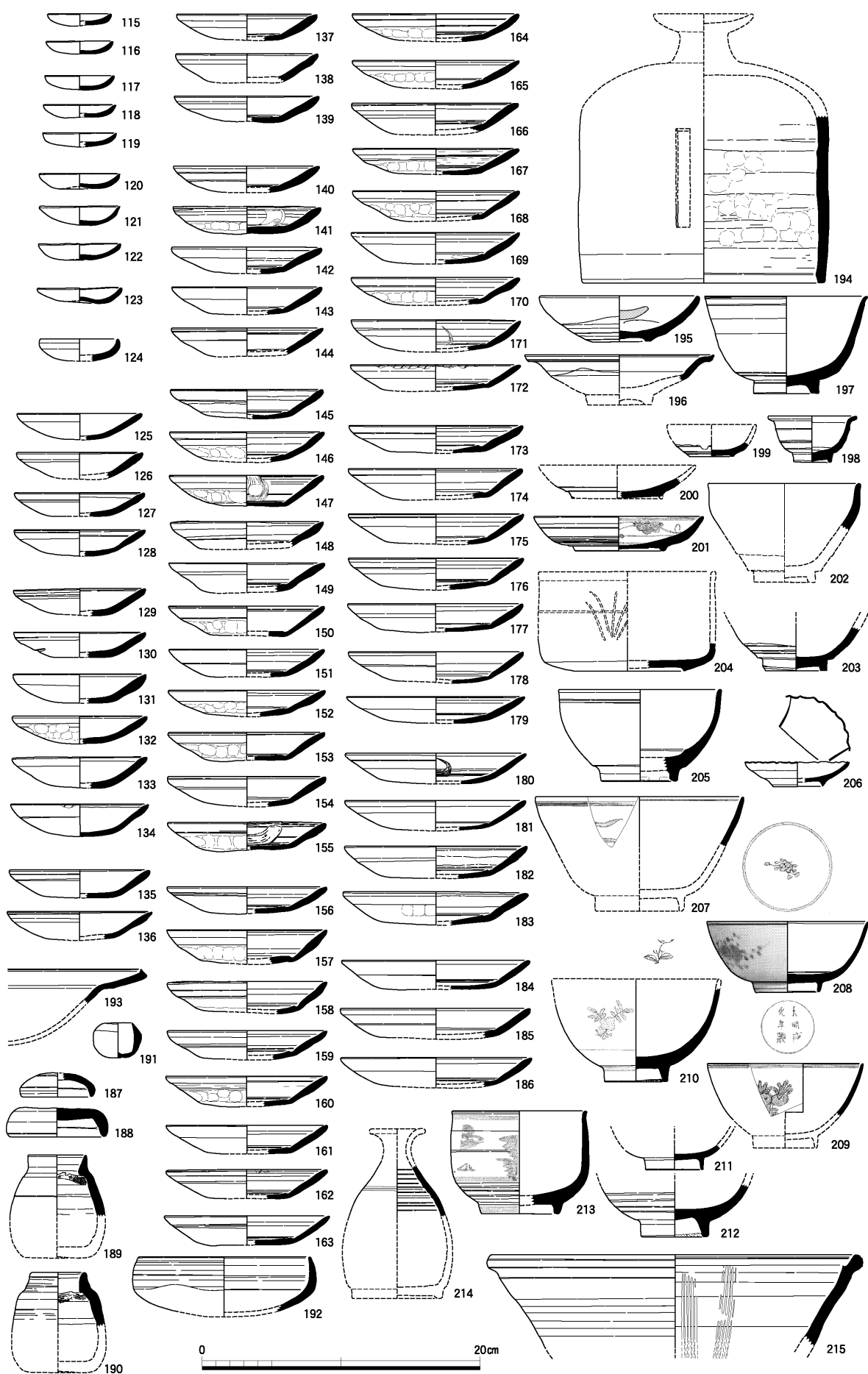


图15 东区SK51上段出土土器实测图（1：4）

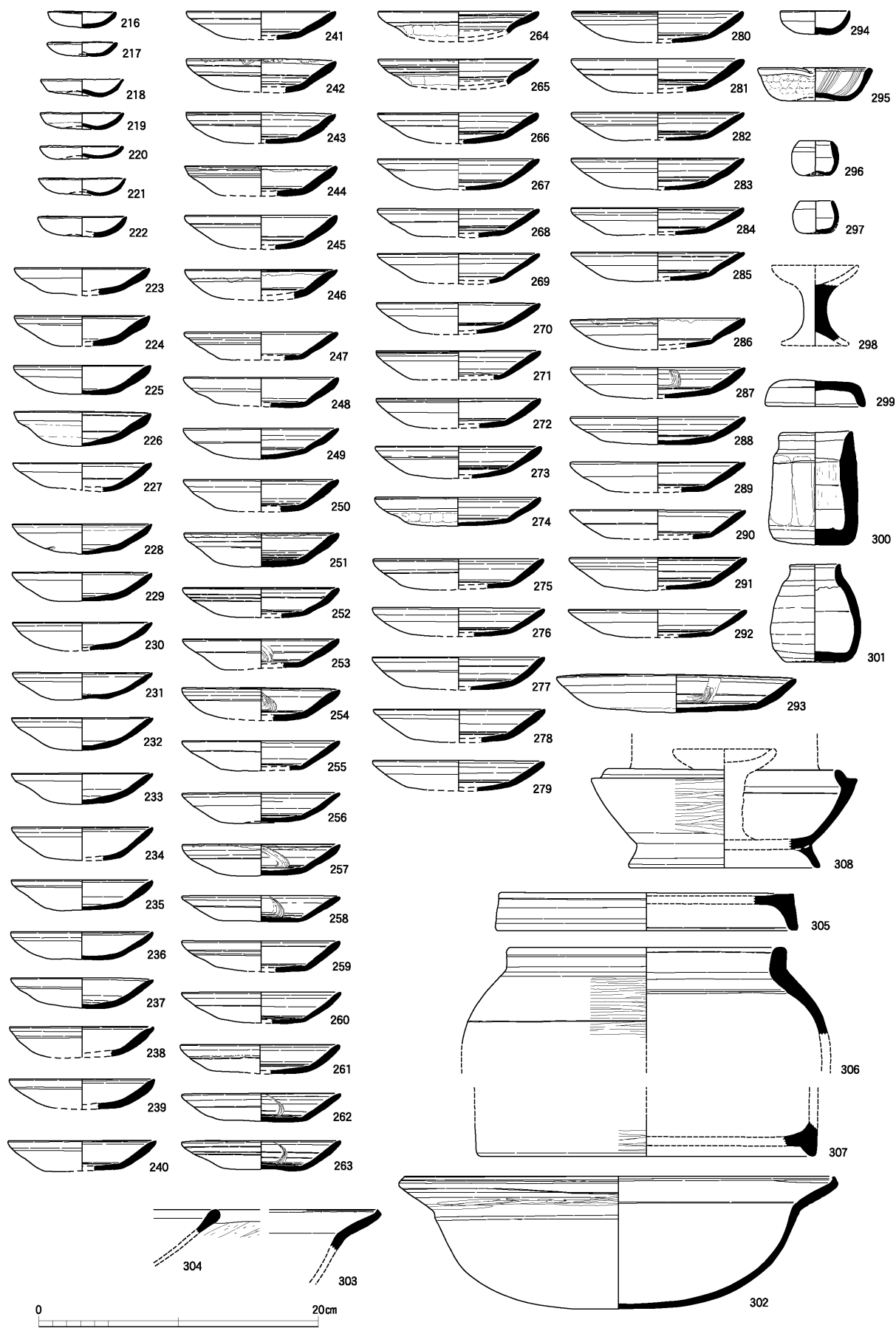


图16 东区SK51下段出土土器实测图1 (1:4)

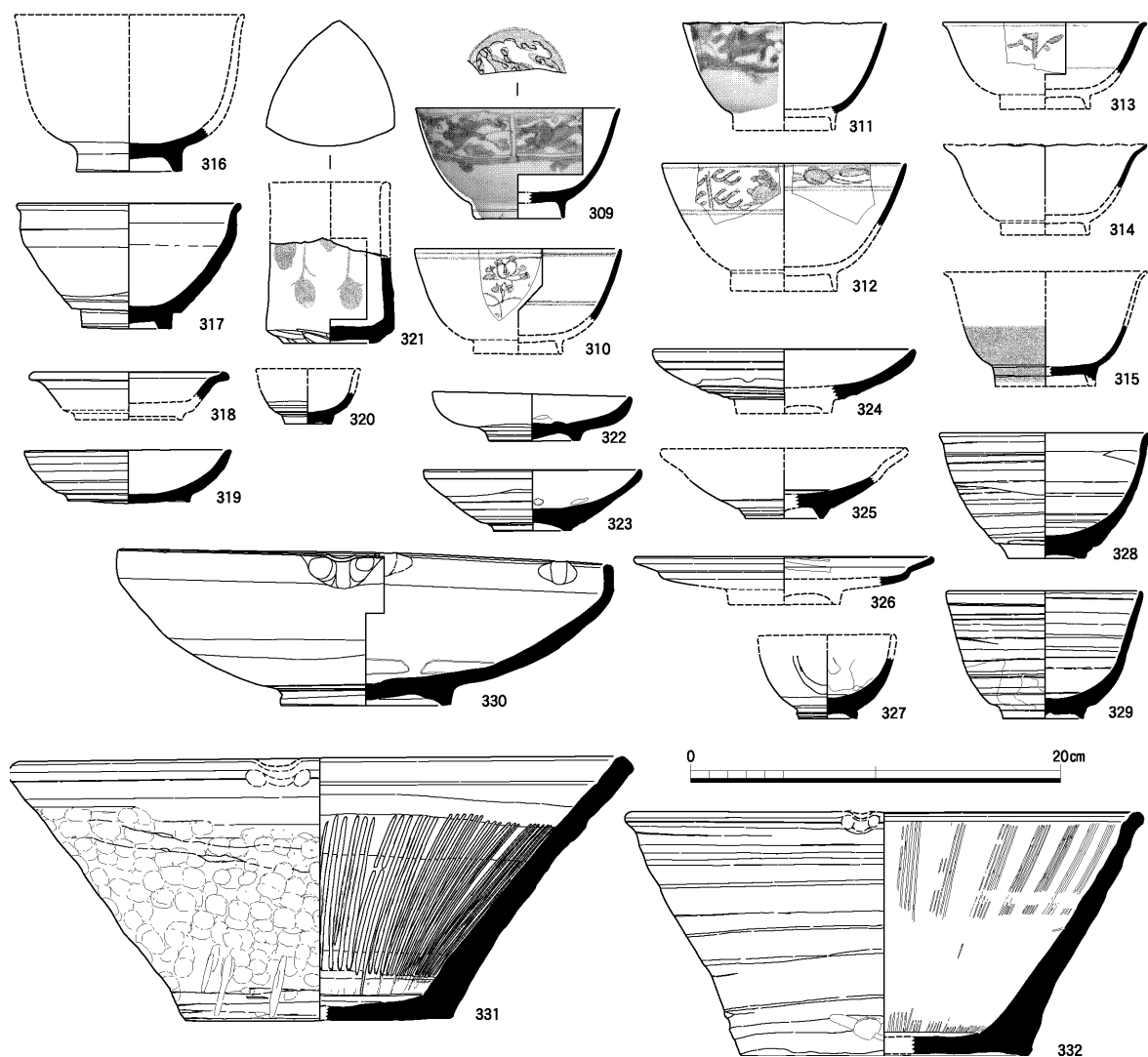


图17 东区SK51下段出土土器实测图 2 (1 : 4)

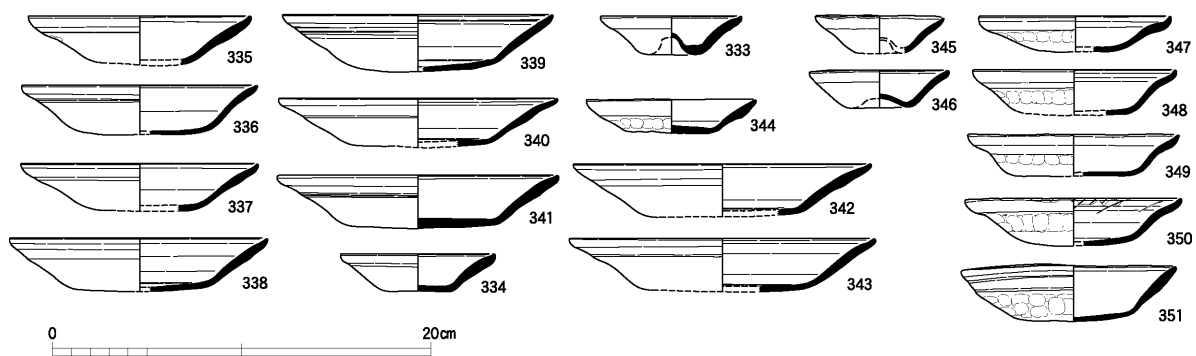


图18 东区SE238上層出土土器实测图 (1 : 4)

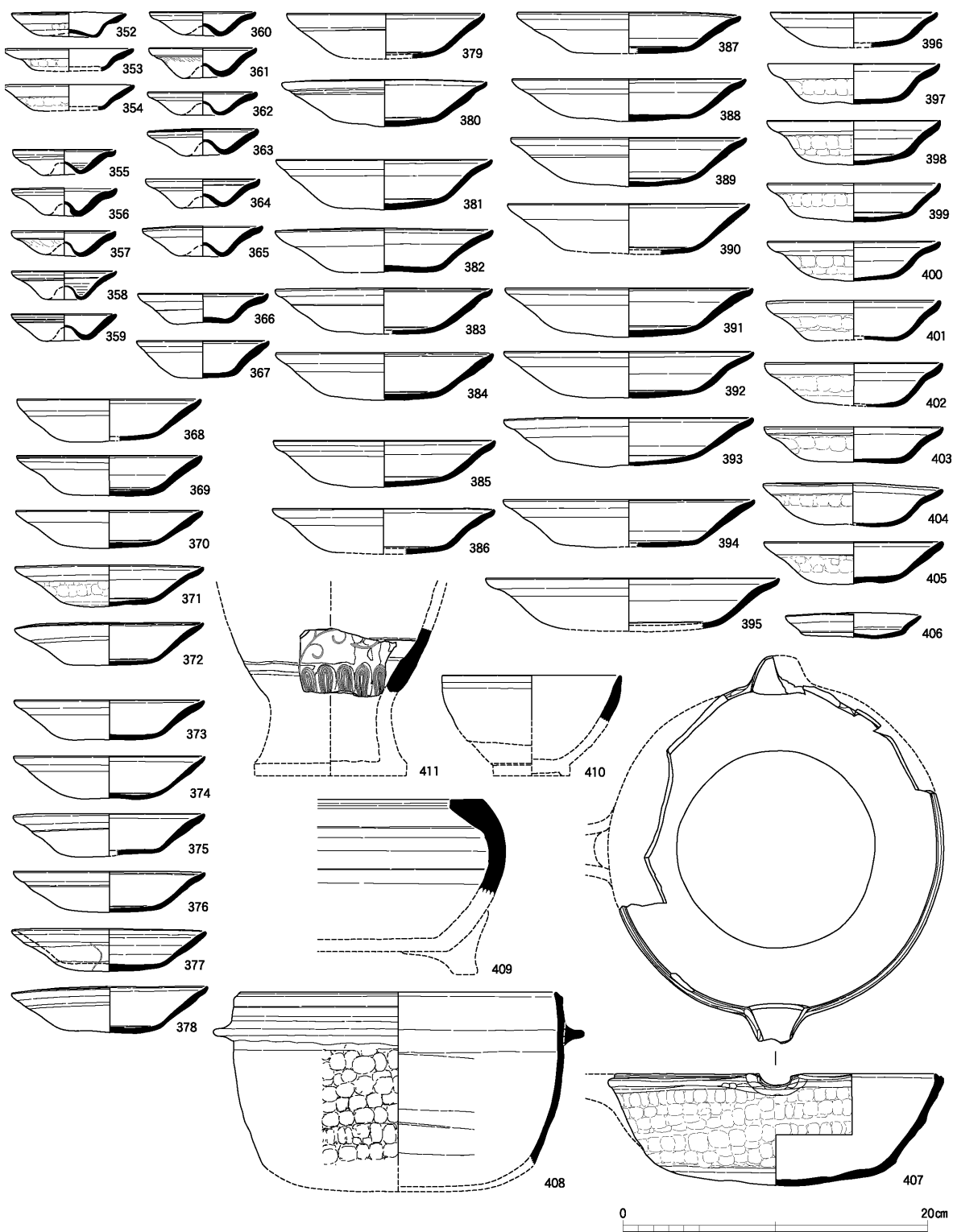


図19 東区SE238中層出土土器実測図（1：4）

上層からは、土師器皿Sh333・皿S小334・皿S335～343・皿N344と主流を占める土師器皿類とは別に、土師器皿（Sh）345～346・皿（N）347・皿（S）348～351とした一群が出土している。これらは基本形態が主流のものとよく似ているが、明らかに作り手の違うものである。生産集団の違いなどが考えられる。他に瓦器火鉢・鍋か羽釜の体部片、焼締陶器甕、瓦類などがある。IX期

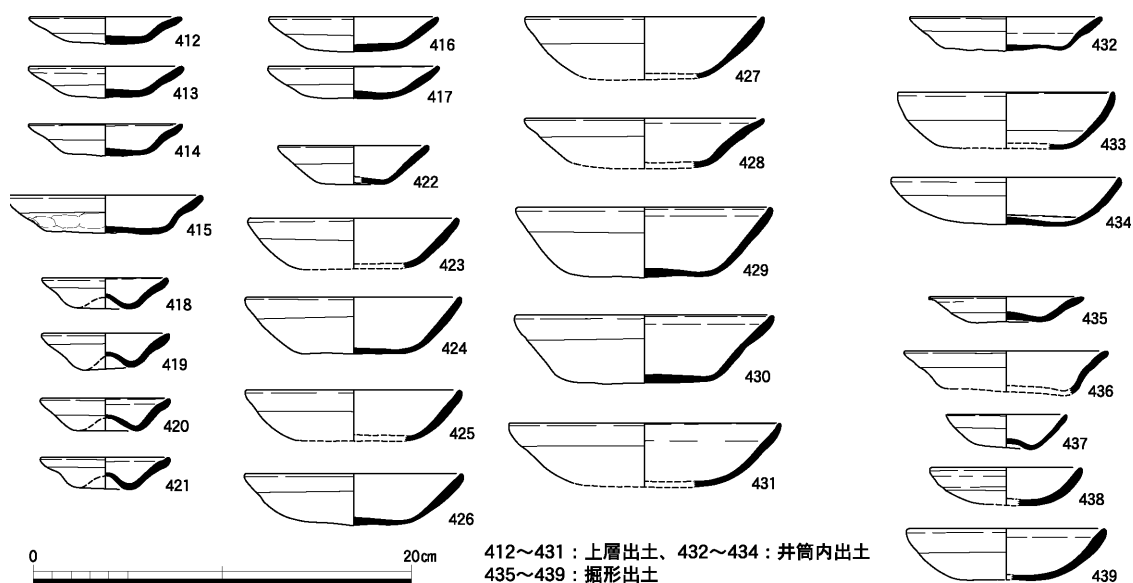


図20 東区SE211出土土器実測図（1：4）

中の新相に位置づけられる土器群と考えている。

中層からは、土師器皿N小352・皿N大353～354・皿Sh355～365・皿S小366～367・皿S368～395と、これらの主流を占めるものの他に、土師器皿（S?）396～405・皿（N?）406がある。土師器皿396～406は上層で出土している345～351と同じ群であると思われる。他に、瓦器羽釜408・両口把手付鍋407・火鉢409、瀬戸天目茶碗410・灰釉平茶碗・灰釉瓶411、焼締陶器甕、平瓦などがある。瓦器火鉢には丸形のものと同角形ものがある。IX期中に位置づけられる土器群である。

東区SE211出土遺物（図20）

東区SE211は、多角形の木枠組みを発見するまで約0.5m掘り下げた段階のものを上層として扱う。上層からは、土師器皿N小412～414・皿N大415・皿S小416～417・皿Sh418～421・皿S小422・皿S大423～431、須恵器鉢（播磨系）、焼締陶器甕、瓦器碗・羽釜・鍋・火鉢、瀬戸鉢・壺、輸入陶磁器白磁皿、平瓦、丸瓦、敷磚、有孔磚などが出土した。

木枠の井筒内より、土師器皿N432・皿S433～434、土師器鉢、焼締陶器甕、瓦器鍋・火鉢、瀬戸卸目皿、輸入陶磁器青磁碗・壺、青白磁皿、平瓦、丸瓦、有孔磚、鉄滓などが出土する。

掘形からは、土師器皿N小435・皿N大436・皿Sh437・皿S小438・皿S大439・羽釜、須恵器鉢（播磨系）・山茶碗、焼締陶器甕、瓦器碗・羽釜・火鉢・壺、輸入陶磁器白磁皿・青磁碗などが出土した。VIII期古の土器群である。

西区SK51出土遺物（図21・22）

西区SK51中層からは、土師器皿N小440～453・皿N大454～464・皿Ac465・皿Sh466～471・皿S472～488・小碗489・ミニチュア羽釜490・小壺491、瓦器杯492・壺493・羽釜494・鍋495～496・火鉢497、輸入陶磁器白磁口禿皿498・白磁碗499・青磁蓮弁文碗500～501・青白磁壺502・青白磁壺蓋503・青白磁皿504・褐釉系盤・褐釉系壺、須恵器鉢（播磨系）505、焼締陶器甕（常滑系）506、瀬戸灰釉鉢507・小杯508・卸目皿509、平瓦、丸瓦、鉄釘などが出土した。

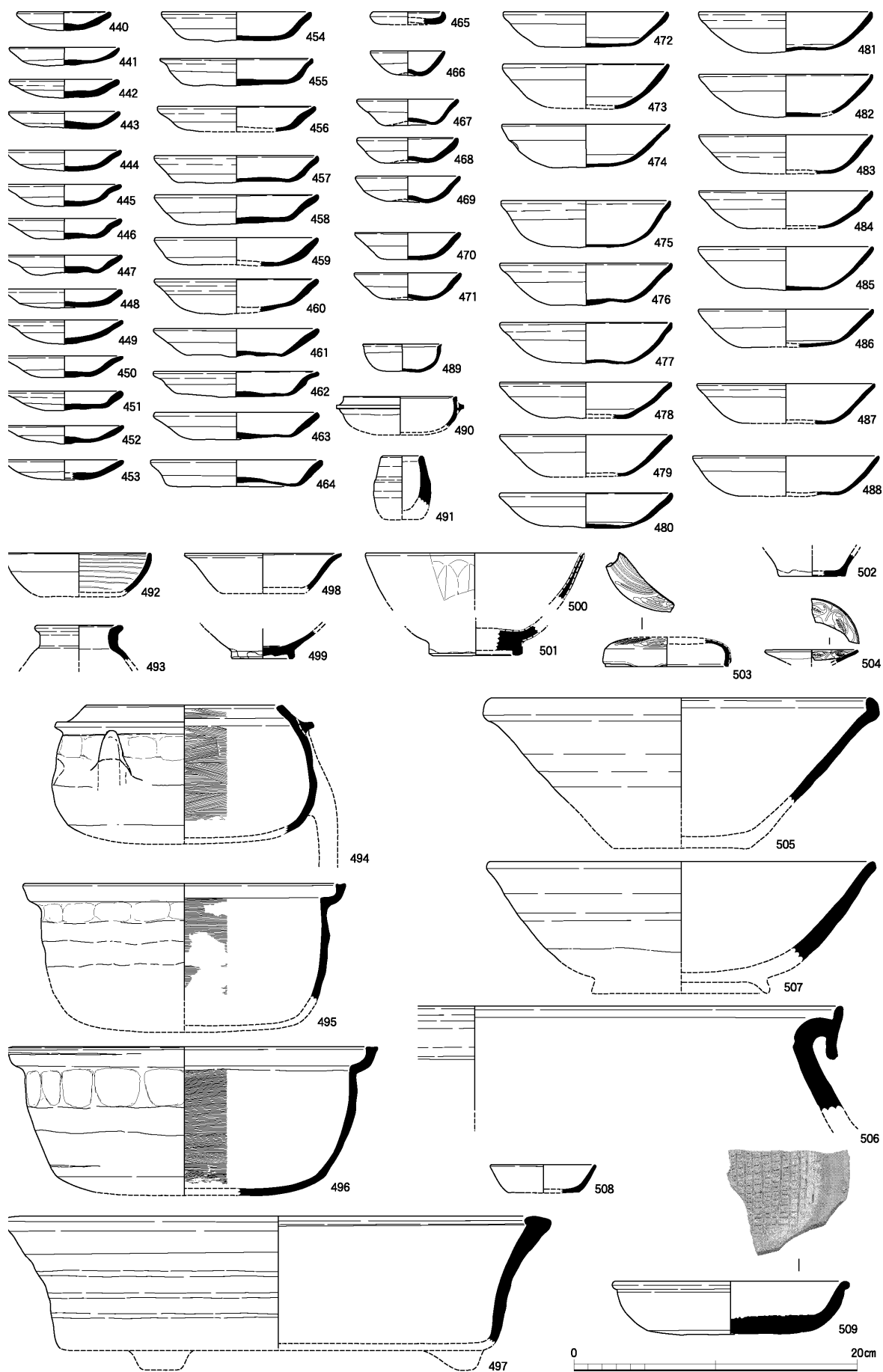


图21 西区SK51中層出土土器实测图（1：4）

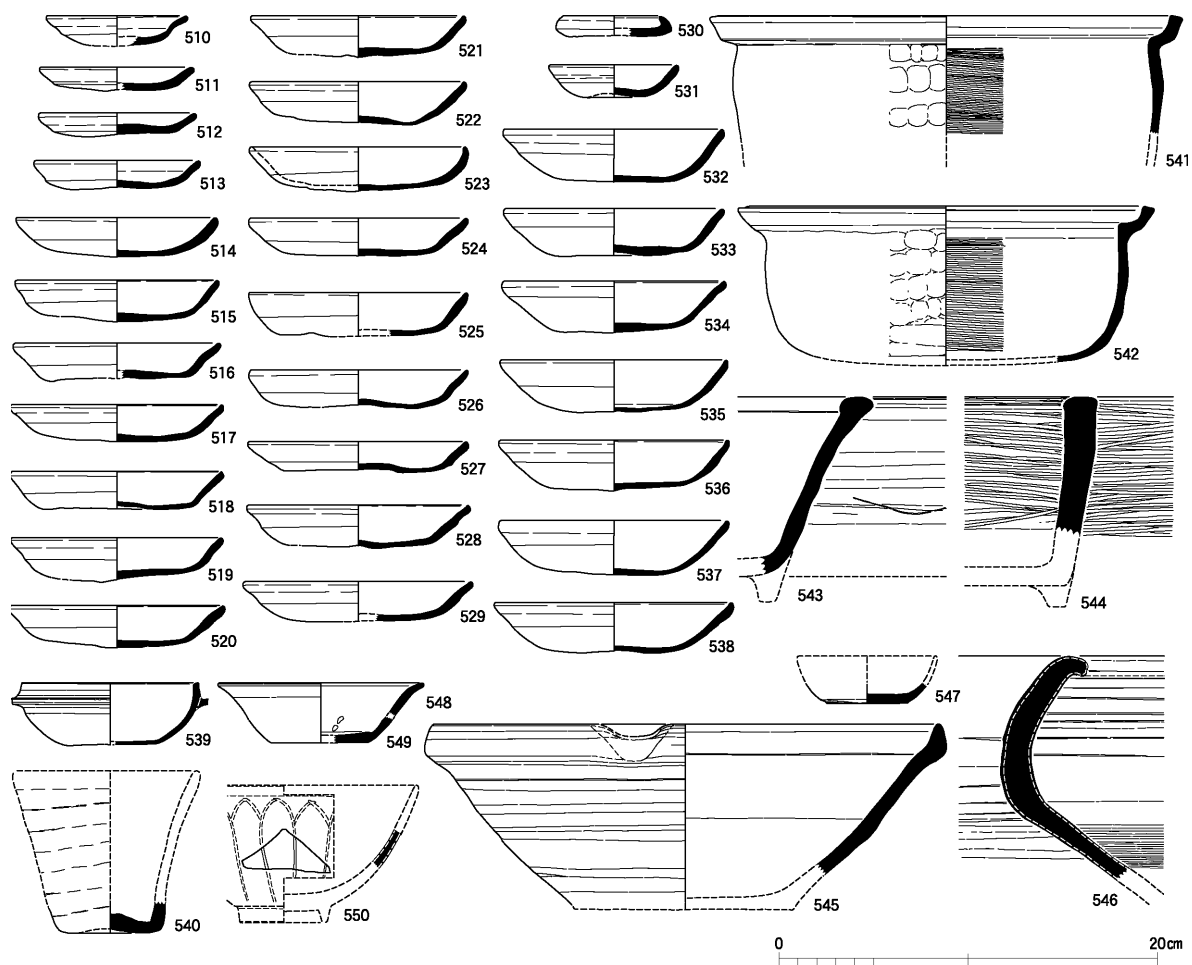


図22 西区SK51下層出土土器実測図（1：4）

同遺構下層からは、土師器皿N小510～513・皿N大514～529・皿Ac530・皿Sh531・皿S532～538・ミニチュア羽釜539・鉢か540、瓦器鍋541～542・火鉢543～544・羽釜・壺、須恵器鉢（播磨系）545・甕、瀬戸小杯547・壺、輸入陶磁器白磁口禿皿548～549・青磁蓮弁文碗550、焼締陶器甕546、軒平瓦（剣頭文）、平瓦、丸瓦などが出土している。下層をⅦ期古の新相、中層をⅦ期中と考えておく。

東区SK419出土遺物（図23）

東区SK419からは、土師器皿N小型551～590・皿N中型591～594・皿N大型595～614、須恵器鉢・甕・山茶碗、白色土器高杯、瓦器火鉢、平瓦などが出土している。Ⅴ期古に位置づけられる。

東区SE123出土遺物（図24）

東区SE123より、平安時代後期の瓦（615～623）がまとまって出土している。一緒に出土した土師器皿の形式からⅤ期新からⅥ期古のものが上層に含まれており、12世紀後半代には埋没したものと推定している。

その他の遺構出土遺物（図25・26）

15世紀後半代から江戸時代前期の遺構からは敷塼が多く出土している。敷塼は、寺のお堂などの床に敷かれるもので中には磨滅痕が確認できるものも多くある（東区SE2など）。輸入磁器の青

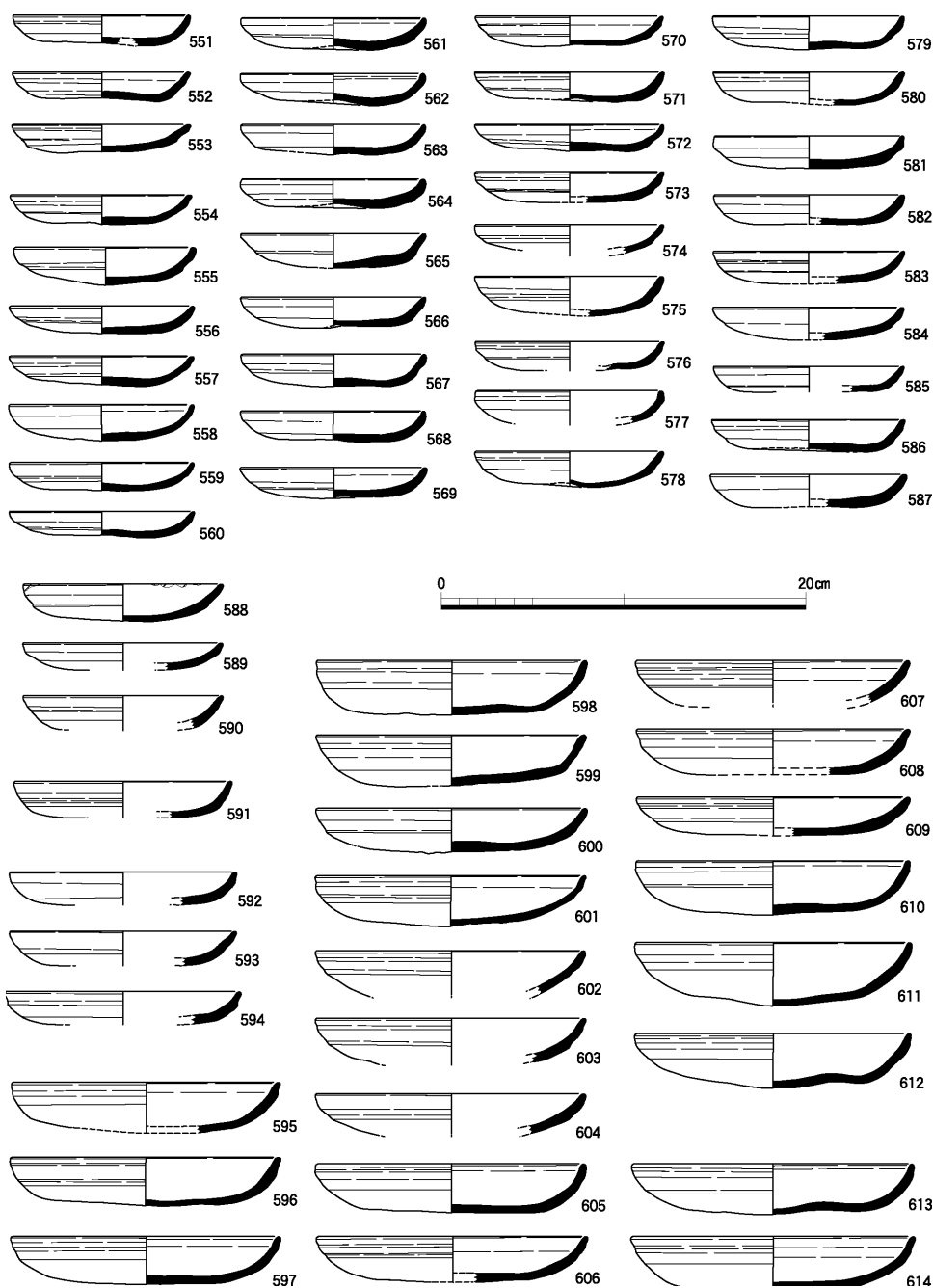


図23 東区SK419出土土器実測図（1：4）

白磁で仏像か塔の台座になると見られる破片も出土している（東区SK87西下層）。五輪塔をスタンプした平瓦も数点確認されており（東区SE126、東区SK388・418・421）、これらの遺物と曇華院との関連が注目される。

註

- 1) 小森俊寛・上村憲章「京都の都市遺跡から出土する土器の編年的研究」『研究紀要』第3号 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1996年

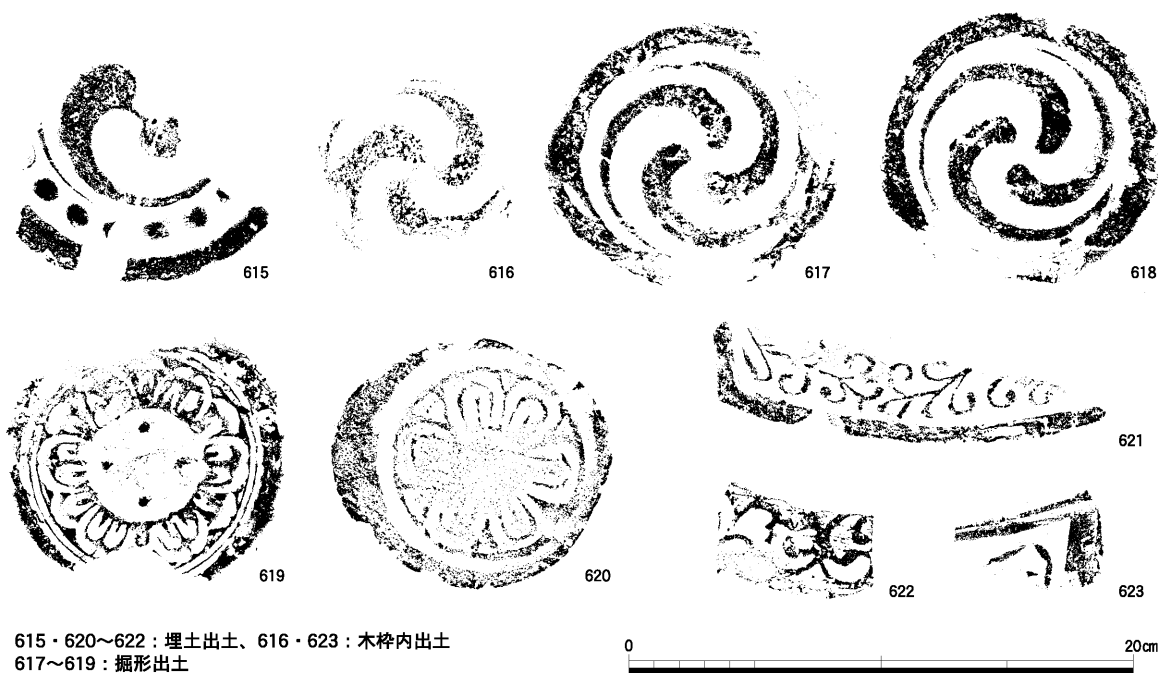


図24 東区SE123出土瓦拓影（1：3）



図25 東区SE 2 出土敷埴



図26 東区SE 2 出土軒丸瓦

5. ま と め

今回の調査では、高倉宮や曇華院が存在した時期の遺構、遺物を数多く確認することができた。直接的に結びつく遺構は見つかっていないが、瓦や敷壇など寺院に関係すると思われる遺物の出土がみられ、多くの情報を得ることができた。

井戸の変遷を見ていくと、東区SE442が最も古く12世紀の初頭に成立する。続いて東区SE79・123、西区SE77、東区SE133などがあり鎌倉時代初頭頃まで続く。鎌倉時代の井戸は東区SE126があるが数は多くない。14世紀代に入って東区SE211が成立する。続いて東区SE270・238と15世紀代に続き、東区SE94・196・218と16世紀代に続く。以降、近世の井戸は数多く確認されている。

高倉の宮の成立は定かではないが、もともと藤原季成の邸宅であったことが知られ、以仁王はその孫にあたる。治承四年（1180）の反平氏の企ての失敗とともに、この邸宅は主を失うこととなる。後、鎌倉時代には分割されたものの、14世紀後半に智泉尼によって曇華院の前身たる瑞雲山通玄寺が起こされることになる。

これらの事柄と井戸の展開状況はよく一致していると見てよい。とりわけ東区SE211からは、鉄滓がまとまって検出され、その創建に関わった遺構であると思われる。

曇華院が成立して以降は、柱穴群や、溝なども数多く検出されている。

条坊関係遺構では東洞院大路関係の遺構の検出が期待されたが、中世後半の堀が重なっていて確認するまでには至らなかった。しかし、平安京域内で散見できる室町時代後半代の堀は、当時の市中の緊張状態を物語る資料として重要である。この堀は曇華院の寺域防衛のために通り沿いに設けられたものである可能性が高い。

付表1 東区SE7出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
1	土師器 皿Sb	7.7	(1.7)	
2	土師器 皿Sb	7.8	(1.7)	
3	土師器 皿Sb	7.9	1.6	
4	土師器 皿Sb	8.0	(1.5)	
5	土師器 皿Sb	8.1	1.6	
6	土師器 皿Sb	8.2	1.5	
7	土師器 皿Sb	8.2	1.8	
8	土師器 皿Sb	8.4	(1.5)	
9	土師器 皿Sb	8.5	(1.5)	
10	土師器 皿Sb	8.5	(1.7)	
11	土師器 皿Sb	8.6	(1.7)	
12	土師器 皿S	10.0	(1.5)	
13	土師器 皿S	10.0	(1.6)	
14	土師器 皿S	10.1	(1.6)	
15	土師器 皿S	10.1	(1.6)	
16	土師器 皿S	10.3	(1.6)	
17	土師器 皿S	10.5	(1.9)	
18	土師器 皿S	10.5	1.7	
19	土師器 皿S	10.6	(1.7)	
20	土師器 皿S	10.8	(1.6)	
21	土師器 皿S	11.5	(1.9)	
22	土師器 皿S	12.0	1.9	
23	染付磁器 椀	11.2	5.6	
24	染付磁器 椀	—	—	

付表2 東区SK74出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
25	輸入 華南三彩 盤	29.0	5.5	

付表3 東区SK44炭層出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
26	土師器 皿Sb	8.8	(1.9)	
27	土師器 皿Sb	8.9	2.0	
28	土師器 皿Sb	9.0	1.7	
29	土師器 皿Sb	9.0	1.8	
30	土師器 皿Sb	9.0	(2.0)	
31	土師器 皿Sb	9.2	1.9	
32	土師器 皿Sb	9.3	(1.8)	
33	土師器 皿S	9.5	(1.7)	
34	土師器 皿S	9.8	(1.9)	
35	土師器 皿S	10.1	2.2	
36	土師器 皿S	10.2	2.0	
37	土師器 皿S	10.3	(1.9)	
38	土師器 皿S	10.5	(1.8)	
39	土師器 皿S	10.5	(1.6)	
40	土師器 皿S	10.5	(1.8)	
41	土師器 皿S	10.5	(1.6)	
42	土師器 皿S	10.5	2.3	
43	土師器 皿S	10.6	(1.9)	
44	土師器 皿S	10.6	(2.1)	
45	土師器 皿S	10.6	(2.1)	
46	土師器 皿S	10.7	2.1	
47	土師器 皿S	10.7	2.1	
48	土師器 皿S	10.8	(2.0)	
49	土師器 皿S	11.4	(1.9)	
50	土師器 皿S	11.7	(2.0)	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
51	土師器 皿S	11.8	(1.9)	
52	土師器 皿S	11.8	(1.9)	
53	土師器 皿S	11.9	(1.8)	
54	土師器 皿S	11.9	(1.7)	
55	土師器 皿S	12.0	2.1	
56	土師器 皿S	12.0	(2.0)	
57	土師器 皿S	12.0	(2.0)	
58	土師器 皿S	12.0	(2.2)	
59	土師器 皿S	12.1	(2.1)	
60	土師器 皿S	12.1	(2.1)	
61	土師器 皿S	12.2	(2.0)	
62	土師器 皿S	12.2	2.1	
63	土師器 皿S	12.2	2.1	
64	土師器 皿S	12.2	(2.2)	
65	土師器 皿S	12.3	(1.9)	
66	土師器 皿S	12.3	(2.1)	
67	土師器 皿S	12.4	(2.0)	
68	土師器 皿S	12.4	(2.0)	
69	土師器 皿S	12.5	(1.9)	
70	土師器 皿S	12.5	(2.1)	
71	土師器 皿S	12.5	(2.0)	
72	土師器 皿S	12.5	(2.2)	
73	土師器 皿S	12.6	(1.9)	
74	土師器 皿S	12.8	(2.1)	
75	土師器 皿S	12.8	(1.9)	
76	土師器 皿S	12.8	(1.9)	
77	土師器 皿S	13.0	(1.9)	
78	土師器 椀(小鉢)	8.4	3.9	
79	土師器 涼炉	15.1	—	
80	焼締陶器? 皿	11.6	(2.6)	
81	唐津銅緑釉 椀	—	—	
82	伊万里白磁 椀	10.9	—	
83	染付磁器 椀	12.8	—	
84	染付磁器 椀	11.0	5.9	
85	染付磁器 椀	10.2	5.4	
86	染付磁器 椀	10.9	6.1	
87	染付磁器 椀	8.8	4.9	
88	染付磁器 椀	19.4	—	
89	京焼系陶器 皿	12.7	3.2	

付表4 東区SK44下層出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
90	土師器 皿Sb	9.1	(2.0)	
91	土師器 皿Sb	9.2	(1.8)	
92	土師器 皿Sb	9.4	1.9	
93	土師器 皿Sb	9.5	1.8	
94	土師器 皿S	9.0	(1.8)	
95	土師器 皿S	10.0	(1.8)	
96	土師器 皿S	10.7	2.1	
97	土師器 皿S	11.0	(1.9)	
98	土師器 皿S	11.1	(2.0)	
99	土師器 皿S	11.2	(2.0)	
100	土師器 皿S	11.7	(1.9)	
101	土師器 皿S	11.7	(2.0)	
102	土師器 皿S	11.8	(2.0)	
103	土師器 皿S	11.9	1.6	
104	土師器 皿S	11.9	(1.9)	
105	土師器 皿S	12.0	(2.0)	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
106	土師器 皿S	12.1	(1.9)	
107	土師器 皿S	12.2	(2.2)	
108	土師器 皿S	12.2	(1.9)	
109	土師器 皿S	12.3	(2.1)	
110	土師器 皿S	12.4	(1.9)	
111	土師器 皿S	13.6	(2.0)	
112	伊万里白磁 椀	12.2	—	
113	伊万里掛分 天目茶椀	10.8	—	
114	銅製品 匙	全長10.3、最大幅1.3		

付表5 東区SK51上段出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
115	土師器 皿Nr	4.6	(0.8)	
116	土師器 皿Nr	4.8	0.9	
117	土師器 皿Nr	5.0	1.1	
118	土師器 皿Nr	5.2	(0.9)	
119	土師器 皿Nr	5.3	(1.0)	
120	土師器 皿Nr	5.8	1.1	
121	土師器 皿Nr	5.8	1.4	
122	土師器 皿Nr	5.9	1.2	
123	土師器 皿Nr	6.1	1.6	
124	土師器 皿	5.8	(1.6)	
125	土師器 皿Sb	9.0	(1.9)	
126	土師器 皿Sb	9.1	(1.9)	
127	土師器 皿Sb	9.4	(1.7)	
128	土師器 皿Sb	9.4	(1.7)	
129	土師器 皿Sb	9.5	(1.9)	
130	土師器 皿Sb	9.5	(1.8)	
131	土師器 皿Sb	9.6	(2.1)	
132	土師器 皿Sb	9.7	(2.0)	
133	土師器 皿Sb	9.7	(2.2)	
134	土師器 皿Sb	9.9	2.3	
135	土師器 皿Sb	10.1	(2.0)	
136	土師器 皿Sb	10.4	(2.1)	
137	土師器 皿S	10.1	(1.9)	
138	土師器 皿S	10.2	(2.1)	
139	土師器 皿S	10.4	(1.9)	
140	土師器 皿S	10.5	(1.9)	
141	土師器 皿S	10.6	2.0	
142	土師器 皿S	10.8	(1.9)	
143	土師器 皿S	10.8	(2.0)	
144	土師器 皿S	10.9	(2.0)	
145	土師器 皿S	11.0	(2.1)	
146	土師器 皿S	11.1	(2.2)	
147	土師器 皿S	11.1	2.2	
148	土師器 皿S	11.1	(2.0)	
149	土師器 皿S	11.2	(2.1)	
150	土師器 皿S	11.2	(2.1)	
151	土師器 皿S	11.2	(2.0)	
152	土師器 皿S	11.3	(1.9)	
153	土師器 皿S	11.4	(2.2)	
154	土師器 皿S	11.4	(2.2)	
155	土師器 皿S	11.4	2.0	
156	土師器 皿S	11.5	(1.9)	
157	土師器 皿S	11.5	(2.5)	
158	土師器 皿S	11.5	(2.2)	
159	土師器 皿S	11.5	(2.1)	
160	土師器 皿S	11.6	(2.2)	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
161	土師器 皿S	11.6	(2.1)	
162	土師器 皿S	11.6	(2.1)	
163	土師器 皿S	11.9	(2.1)	
164	土師器 皿S	12.0	(2.0)	
165	土師器 皿S	12.0	(2.0)	
166	土師器 皿S	12.0	(2.3)	
167	土師器 皿S	12.0	(2.0)	
168	土師器 皿S	12.0	(2.3)	
169	土師器 皿S	12.1	(1.9)	
170	土師器 皿S	12.1	(2.0)	
171	土師器 皿S	12.2	(2.2)	
172	土師器 皿S	12.2	(2.2)	
173	土師器 皿S	12.5	(2.3)	
174	土師器 皿S	12.5	(2.0)	
175	土師器 皿S	12.6	(2.2)	
176	土師器 皿S	12.6	(2.3)	
177	土師器 皿S	12.6	(2.0)	
178	土師器 皿S	12.6	(2.2)	
179	土師器 皿S	12.8	(1.9)	
180	土師器 皿S	13.0	(2.2)	
181	土師器 皿S	13.0	(2.2)	
182	土師器 皿S	13.1	(2.3)	
183	土師器 皿S	13.3	(2.4)	
184	土師器 皿S	13.5	(2.1)	
185	土師器 皿S	13.6	(2.2)	
186	土師器 皿S	13.7	(2.2)	
187	土師器 塩壺蓋	5.4	(1.7)	
188	土師器 塩壺蓋	7.3	2.1	
189	土師器 塩壺	4.3	—	
190	土師器 塩壺	4.2	—	
191	土師器 小壺	2.2	2.5	
192	瓦器 鉢	12.5	4.3	
193	土師器 焙烙鍋	—	—	
194	瓦器 瓦灯蓋	17.5	—	
195	唐津 皿	11.5	3.3	
196	唐津 皿	13.6	—	
197	唐津 椀	11.7	7.0	
198	美濃瀬戸系灰釉 小椀	6.4	3.3	
199	志野 小皿	—	—	
200	志野 皿	—	—	
201	志野鉄絵 皿	12.2	2.5	
202	美濃瀬戸系 天目茶椀	11.0	—	
203	美濃瀬戸系 天目茶椀	—	—	
204	黄瀬戸 向付	—	—	胴径12.6
205	伊万里青磁 椀	11.7	6.6	
206	伊万里青磁 稜花皿	7.5	1.8	
207	伊万里染付 椀	15.0	—	
208	伊万里染付 椀	11.6	5.1	
209	輸入陶磁器 染付 椀	11.2	—	
210	伊万里染付 椀	—	—	
211	伊万里白磁 椀	—	—	
212	伊万里白磁？ 椀	—	—	
213	伊万里染付 椀	9.7	7.4	
214	伊万里染付 徳利	—	—	
215	焼締陶器 信楽 搦鉢	27.0	—	

付表6 東区SK51下段出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
216	土師器 皿Nr	4.9	1.2	
217	土師器 皿Nr	5.0	1.0	
218	土師器 皿Nr	5.9	1.2	
219	土師器 皿Nr	6.0	1.2	
220	土師器 皿Nr	6.0	0.9	
221	土師器 皿Nr	6.2	1.2	
222	土師器 皿Nr	6.4	(1.4)	
223	土師器 皿Sb	9.7	(2.2)	
224	土師器 皿Sb	9.7	(2.2)	
225	土師器 皿Sb	9.8	2.1	
226	土師器 皿Sb	9.8	2.5	
227	土師器 皿Sb	9.9	(1.9)	
228	土師器 皿Sb	10.0	2.2	
229	土師器 皿Sb	10.0	2.1	
230	土師器 皿Sb	10.0	(2.0)	
231	土師器 皿Sb	10.0	1.9	
232	土師器 皿Sb	10.1	2.3	
233	土師器 皿Sb	10.1	2.2	
234	土師器 皿Sb	10.1	(2.4)	
235	土師器 皿Sb	10.1	2.2	
236	土師器 皿Sb	10.2	2.0	
237	土師器 皿Sb	10.2	2.2	
238	土師器 皿Sb	10.3	(2.2)	
239	土師器 皿Sb	10.4	(2.2)	
240	土師器 皿Sb	10.6	(2.2)	
241	土師器 皿S	10.7	(2.0)	
242	土師器 皿S	10.7	(2.0)	
243	土師器 皿S	10.7	(2.2)	
244	土師器 皿S	10.9	(2.2)	
245	土師器 皿S	10.9	(2.4)	
246	土師器 皿S	10.9	(2.2)	
247	土師器 皿S	11.0	(2.0)	
248	土師器 皿S	11.1	(2.1)	
249	土師器 皿S	11.1	2.2	
250	土師器 皿S	11.1	(2.3)	
251	土師器 皿S	11.1	2.4	
252	土師器 皿S	11.2	(2.2)	
253	土師器 皿S	11.2	(2.1)	
254	土師器 皿S	11.3	(2.4)	
255	土師器 皿S	11.3	(2.2)	
256	土師器 皿S	11.3	2.2	
257	土師器 皿S	11.3	2.2	
258	土師器 皿S	11.3	1.9	
259	土師器 皿S	11.3	(2.2)	
260	土師器 皿S	11.4	(2.2)	
261	土師器 皿S	11.4	(2.1)	
262	土師器 皿S	11.4	2.0	
263	土師器 皿S	11.4	2.1	
264	土師器 皿S	11.5	(2.2)	
265	土師器 皿S	11.5	(2.2)	
266	土師器 皿S	11.5	(2.2)	
267	土師器 皿S	11.6	(2.2)	
268	土師器 皿S	11.6	(2.0)	
269	土師器 皿S	11.6	(2.2)	
270	土師器 皿S	11.7	(2.3)	
271	土師器 皿S	11.8	(2.1)	
272	土師器 皿S	11.8	(2.2)	
273	土師器 皿S	11.9	(2.3)	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
274	土師器 皿S	11.9	2.2	
275	土師器 皿S	12.2	(2.2)	
276	土師器 皿S	12.3	(2.1)	
277	土師器 皿S	12.3	(2.4)	
278	土師器 皿S	12.3	(2.4)	
279	土師器 皿S	12.3	(2.2)	
280	土師器 皿S	12.3	(2.3)	
281	土師器 皿S	12.4	(2.4)	
282	土師器 皿S	12.4	(2.0)	
283	土師器 皿S	12.4	(2.3)	
284	土師器 皿S	12.4	(2.0)	
285	土師器 皿S	12.4	(2.1)	
286	土師器 皿S	12.5	(2.3)	
287	土師器 皿S	12.5	(2.2)	
288	土師器 皿S	12.5	2.0	
289	土師器 皿S	12.6	(2.2)	
290	土師器 皿S	12.6	(2.1)	
291	土師器 皿S	12.7	(2.4)	
292	土師器 皿S	12.8	(2.0)	
293	土師器 皿S	17.1	2.8	
294	土師器 皿(小杯)	5.0	1.7	
295	土師器 小浅鉢(播目付)	8.2	2.4	
296	土師器 小壺	2.3	2.0	
297	土師器 小壺	2.4	1.9	
298	土師器 高杯?	—	—	
299	土師器 塩壺蓋	7.2	1.8	
300	土師器 塩壺	5.4	8.1	
301	土師器 塩壺	3.6	7.0	
302	土師器 焙烙鍋	31.4	9.5	
303	土師器 焙烙鍋	—	—	
304	土師器 焙烙鍋	—	—	
305	瓦器 火消壺蓋	21.6	(2.7)	
306	瓦器 火消壺	20.1	—	
307	瓦器 火桶		—	胴径24.4
308	瓦器 瓦灯		—	胴径19.2
309	輸入染付 碗	11.0	6.0	
310	輸入染付 碗	11.2	—	
311	輸入染付 碗	11.0	—	
312	輸入染付 碗	13.3	—	
313	輸入染付 碗	11.2	—	
314	輸入白磁 碗	11.0	—	
315	輸入掛分 碗	—	—	
316	志野 碗	—	—	
317	美濃瀬戸系 天目茶碗	12.1	6.8	
318	美濃瀬戸系灰釉 折縁皿	10.8	—	
319	志野 皿	11.2	2.9	
320	織部(総織部) 小碗	—	—	
321	織部 向付	—	—	
322	唐津 皿	10.8	2.6	
323	唐津 皿	11.8	3.3	
324	唐津 皿	14.2	—	
325	唐津 皿	—	—	
326	唐津 皿	16.2	—	
327	唐津 小碗	—	—	
328	唐津 碗	11.4	6.8	
329	唐津 碗	10.6	6.8	
330	唐津 片口付鉢	26.8	8.3	
331	焼締陶器 丹波 播鉢	33.8	13.9	
332	焼締陶器 信楽 播鉢	28.2	13.2	

付表7 東区SE238上層出土掲載遺物一覧表

No	種類・器形	口径	器高	備考
333	土師器 皿Sh	7.5	2.0	
334	土師器 皿S小	8.2	2.0	
335	土師器 皿S	11.8	(2.6)	
336	土師器 皿S	12.5	(2.6)	
337	土師器 皿S	12.6	(2.5)	
338	土師器 皿S	13.8	(2.8)	
339	土師器 皿S	14.3	(3.0)	
340	土師器 皿S	14.8	(2.6)	
341	土師器 皿S	14.9	2.8	
342	土師器 皿S	15.8	(2.8)	
343	土師器 皿S	16.2	(2.8)	
344	土師器 皿N	9.0	1.8	
345	土師器 皿(Sh)	6.8	2.0	
346	土師器 皿(Sh)	7.4	2.0	
347	土師器 皿(N)	10.2	(1.9)	
348	土師器 皿(S)	10.8	(2.4)	
349	土師器 皿(S)	11.2	(2.2)	
350	土師器 皿(S)	11.5	(2.5)	
351	土師器 皿(S)	11.9	3.0	

付表8 東区SE238中層出土掲載遺物一覧表

No	種類・器形	口径	器高	備考
352	土師器 皿N小	7.5		
353	土師器 皿N大	8.5	(1.5)	
354	土師器 皿N大	8.6	(1.7)	
355	土師器 皿Sh	6.8	1.6	
356	土師器 皿Sh	6.9	1.8	
357	土師器 皿Sh	6.9	1.6	
358	土師器 皿Sh	6.9	1.9	
359	土師器 皿Sh	6.9	1.8	
360	土師器 皿Sh	7.0	1.6	
361	土師器 皿Sh	7.1	2.0	
362	土師器 皿Sh	7.2	1.5	
363	土師器 皿Sh	7.3	1.8	
364	土師器 皿Sh	7.5	1.9	
365	土師器 皿Sh	7.9	2.0	
366	土師器 皿S小	8.6	1.9	
367	土師器 皿S小	8.7	2.4	
368	土師器 皿S	12.1	(2.8)	
369	土師器 皿S	12.2	2.7	
370	土師器 皿S	12.3	2.5	
371	土師器 皿S	12.4	2.7	
372	土師器 皿S	12.4	2.8	
373	土師器 皿S	12.5	2.6	
374	土師器 皿S	12.6	2.8	
375	土師器 皿S	12.6	(2.8)	
376	土師器 皿S	12.6	2.7	
377	土師器 皿S	12.8	2.8	
378	土師器 皿S	12.9	3.1	
379	土師器 皿S	13.0	(3.0)	
380	土師器 皿S	13.5	3.1	
381	土師器 皿S	14.2	3.3	
382	土師器 皿S	14.3	2.9	
383	土師器 皿S	14.3	(3.0)	
384	土師器 皿S	14.3	3.1	
385	土師器 皿S	14.6	3.0	
386	土師器 皿S	14.6	(3.0)	

No	種類・器形	口径	器高	備考
387	土師器 皿S	14.7	(2.8)	
388	土師器 皿S	15.4	2.8	
389	土師器 皿S	15.5	3.2	
390	土師器 皿S	15.9	(3.2)	
391	土師器 皿S	16.3	3.2	
392	土師器 皿S	16.4	3.1	
393	土師器 皿S	16.4	3.2	
394	土師器 皿S	16.5	(3.1)	
395	土師器 皿S	18.8	3.5	
396	土師器 皿(S?)	11.0	(2.3)	
397	土師器 皿(S?)	11.3	2.7	
398	土師器 皿(S?)	11.4	2.9	
399	土師器 皿(S?)	11.4	2.5	
400	土師器 皿(S?)	11.4	2.6	
401	土師器 皿(S?)	11.5	(2.7)	
402	土師器 皿(S?)	11.7	(2.8)	
403	土師器 皿(S?)	11.8	2.3	
404	土師器 皿(S?)	11.8	2.8	
405	土師器 皿(S?)	11.8	2.8	
406	土師器 皿(N?)	8.9	1.6	
407	瓦器 両口把手付鍋	22.0	7.9	
408	瓦器 羽釜	21.6	—	
409	瓦器 火鉢	—	—	
410	瀬戸 天目茶碗	11.8	—	
411	瀬戸灰釉 瓶	—	—	

付表9 東区SE211上層出土掲載遺物一覧表

No	種類・器形	口径	器高	備考
412	土師器 皿N小	8.1	1.4	
413	土師器 皿N小	8.2	1.7	
414	土師器 皿N小	8.2	1.7	
415	土師器 皿N大	10.4	2.0	
416	土師器 皿S小か	9.0	1.9	
417	土師器 皿S小か	9.1	1.7	
418	土師器 皿Sh	6.7	1.6	
419	土師器 皿Sh	6.8	1.9	
420	土師器 皿Sh	6.9	1.8	
421	土師器 皿Sh	6.9	1.7	
422	土師器 皿S小	8.0	2.1	
423	土師器 皿S大	11.2	(2.7)	
424	土師器 皿S大	11.5	3.0	
425	土師器 皿S大	11.5	(2.7)	
426	土師器 皿S大	11.6	2.7	
427	土師器 皿S大	12.7	(3.3)	
428	土師器 皿S大	12.7	(2.6)	
429	土師器 皿S大	13.6	3.7	
430	土師器 皿S大	13.8	3.6	
431	土師器 皿S大	14.4	(3.4)	

付表10 東区SE211井筒内出土掲載遺物一覧表

No	種類・器形	口径	器高	備考
432	土師器 皿N	10.2	1.8	
433	土師器 皿S	11.5	(3.0)	
434	土師器 皿S	12.2	2.5	

付表11 東区SE211掘形出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
435	土師器 皿N小	8.2	1.8	
436	土師器 皿N大	10.8	(2.2)	
437	土師器 皿Sh	6.4	1.8	
438	土師器 皿S小	8.1	(2.0)	
439	土師器 皿S大	10.6	(2.7)	

付表12 西区SK51中層出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
440	土師器 皿N小	6.7	1.3	
441	土師器 皿N小	7.8	1.3	
442	土師器 皿N小	7.8	1.3	
443	土師器 皿N小	7.9	1.2	
444	土師器 皿N小	8.1	1.4	
445	土師器 皿N小	8.1	1.6	
446	土師器 皿N小	8.2	1.5	
447	土師器 皿N小	8.2	1.2	
448	土師器 皿N小	8.2	1.3	
449	土師器 皿N小	8.3	1.7	
450	土師器 皿N小	8.3	1.5	
451	土師器 皿N小	8.3	1.4	
452	土師器 皿N小	8.4	1.3	
453	土師器 皿N小	8.4	(1.4)	
454	土師器 皿N大	10.6	2.0	
455	土師器 皿N大	10.8	1.9	
456	土師器 皿N大	11.2	(1.8)	
457	土師器 皿N大	11.6	1.9	
458	土師器 皿N大	11.6	2.1	
459	土師器 皿N大	11.6	(1.9)	
460	土師器 皿N大	11.6	(2.4)	
461	土師器 皿N大	11.7	2.0	
462	土師器 皿N大	11.7	1.8	
463	土師器 皿N大	11.7	1.9	
464	土師器 皿N大	12.2	1.9	
465	土師器 皿Ac	5.4	(0.9)	
466	土師器 皿Sh	5.3	1.7	
467	土師器 皿Sh	7.2	1.8	
468	土師器 皿Sh	7.2	1.8	
469	土師器 皿Sh	7.4	1.8	
470	土師器 皿Sh	7.5	1.9	
471	土師器 皿Sh	7.6	1.9	
472	土師器 皿S	11.7	2.5	
473	土師器 皿S	11.8	(3.2)	
474	土師器 皿S	11.9	3.1	
475	土師器 皿S	12.0	3.3	
476	土師器 皿S	12.2	3.0	
477	土師器 皿S	12.2	2.9	
478	土師器 皿S	12.2	(2.6)	
479	土師器 皿S	12.2	(3.0)	
480	土師器 皿S	12.3	2.5	
481	土師器 皿S	12.3	2.8	
482	土師器 皿S	12.3	3.0	
483	土師器 皿S	12.3	(2.8)	
484	土師器 皿S	12.3	(2.7)	
485	土師器 皿S	12.4	3.1	
486	土師器 皿S	12.4	2.7	
487	土師器 皿S	12.6	(2.8)	
488	土師器 皿S	13.2	(2.8)	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
489	土師器 小椀	5.6	1.9	
490	土師器 ミニチュア羽釜	8.0	(2.7)	
491	土師器 小壺	3.0	(4.5)	
492	瓦器 杯	10.2	(3.1)	
493	瓦器 壺	6.2		
494	瓦器 羽釜	13.8		
495	瓦器 鍋	22.8	(10.5)	
496	瓦器 鍋	25.3	(11.5)	
497	瓦器 火鉢	38.5		
498	輸入白磁 口元皿	11.1	(2.8)	
499	輸入白磁 椀			
500	輸入青磁 蓮弁文椀	15.5		
501	輸入青磁 蓮弁文椀			
502	輸入青白磁 壺			
503	輸入青白磁 壺蓋	8.7	(2.1)	
504	輸入青白磁 皿	6.6		
505	須恵器 鉢(播磨産)	28.0		
506	焼締陶器 甕			
507	瀬戸灰釉 鉢(常滑産)	27.5		
508	瀬戸か 小杯	6.5	(2.0)	
509	瀬戸 御目皿	16.8	3.8	

付表13 西区SK51下層出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
510	土師器 皿N小	7.5	(1.6)	
511	土師器 皿N小	8.2	(1.2)	
512	土師器 皿N小	8.4	1.2	
513	土師器 皿N小	8.8	1.4	
514	土師器 皿N大	10.7	2.1	
515	土師器 皿N大	10.8	2.2	
516	土師器 皿N大	11.0	(1.9)	
517	土師器 皿N大	11.3	1.9	
518	土師器 皿N大	11.3	2.0	
519	土師器 皿N大	11.3	2.2	
520	土師器 皿N大	11.4	2.2	
521	土師器 皿N大	11.4	2.2	
522	土師器 皿N大	11.5	2.2	
523	土師器 皿N大	11.6	2.8	
524	土師器 皿N大	11.6	2.0	
525	土師器 皿N大	11.6	(2.3)	
526	土師器 皿N大	11.6	1.9	
527	土師器 皿N大	11.7	1.5	
528	土師器 皿N大	11.8	2.2	
529	土師器 皿N大	12.2	2.1	
530	土師器 皿Ac	6.1	(1.1)	
531	土師器 皿Sh	6.9	1.7	
532	土師器 皿S	11.7	2.8	
533	土師器 皿S	11.7	2.5	
534	土師器 皿S	11.9	2.7	
535	土師器 皿S	12.1	2.7	
536	土師器 皿S	12.2	2.7	
537	土師器 皿S	12.2	2.9	
538	土師器 皿S	12.7	2.6	
539	土師器 ミニチュア羽釜	9.4	(3.3)	
540	土師器 鉢か	—	—	
541	瓦器 鍋	25.0	—	
542	瓦器 鍋	22.0	(8.4)	
543	瓦器 火鉢	—	—	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
544	瓦器 火鉢	—	—	
545	須恵器 鉢	27.6	—	
546	須恵器 甕	—	—	
547	瀬戸か 小杯	—	—	
548	輸入白磁 口元皿	10.9	(3.3)	
549	輸入白磁 口元皿	—	—	
550	輸入青磁 蓮弁文椀	—	—	

付表14 東区SK419出土掲載遺物一覧表

No.	種類・器形	口径	器高	備考
551	土師器 皿N小	9.7	1.5	
552	土師器 皿N小	9.8	1.4	
553	土師器 皿N小	9.8	1.5	
554	土師器 皿N小	10.0	1.6	
555	土師器 皿N小	10.0	2.1	
556	土師器 皿N小	10.2	1.5	
557	土師器 皿N小	10.2	1.6	
558	土師器 皿N小	10.2	2.0	
559	土師器 皿N小	10.2	1.6	
560	土師器 皿N小	10.2	1.3	
561	土師器 皿N小	10.2	1.7	
562	土師器 皿N小	10.2	1.6	
563	土師器 皿N小	10.2	1.7	
564	土師器 皿N小	10.2	1.6	
565	土師器 皿N小	10.2	1.9	
566	土師器 皿N小	10.2	1.7	
567	土師器 皿N小	10.2	1.8	
568	土師器 皿N小	10.2	1.6	
569	土師器 皿N小	10.3	1.7	
570	土師器 皿N小	10.4	1.6	
571	土師器 皿N小	10.4	1.6	
572	土師器 皿N小	10.4	1.5	
573	土師器 皿N小	10.4	(1.7)	
574	土師器 皿N小	10.4	—	
575	土師器 皿N小	10.4	(2.2)	
576	土師器 皿N小	10.4	—	
577	土師器 皿N小	10.4	—	
578	土師器 皿N小	10.4	1.9	
579	土師器 皿N小	10.5	1.8	
580	土師器 皿N小	10.5	(1.8)	
581	土師器 皿N小	10.5	1.8	
582	土師器 皿N小	10.5	1.6	
583	土師器 皿N小	10.5	1.8	
584	土師器 皿N小	10.5	(1.8)	
585	土師器 皿N小	10.5	(1.9)	
586	土師器 皿N小	10.6	1.7	
587	土師器 皿N小	10.8	(1.8)	
588	土師器 皿N小	11.0	2.1	
589	土師器 皿N小	11.0	(2.0)	
590	土師器 皿N小	11.0	—	
591	土師器 皿N中	12.0	(2.0)	
592	土師器 皿N中	12.5	(1.8)	
593	土師器 皿N中	12.5	(1.9)	
594	土師器 皿N中	13.2	(1.8)	
595	土師器 皿N大	14.7	(2.8)	
596	土師器 皿N大	14.8	2.7	
597	土師器 皿N大	14.8	2.7	
598	土師器 皿N大	14.8	3.0	

No.	種類・器形	口径	器高	備考
599	土師器 皿N大	14.8	2.8	
600	土師器 皿N大	14.8	2.4	
601	土師器 皿N大	14.8	2.8	
602	土師器 皿N大	14.8	—	
603	土師器 皿N大	14.8	—	
604	土師器 皿N大	14.8	—	
605	土師器 皿N大	14.9	2.7	
606	土師器 皿N大	14.9	(2.5)	
607	土師器 皿N大	15.0	(2.6)	
608	土師器 皿N大	15.0	(2.5)	
609	土師器 皿N大	15.0	(2.1)	
610	土師器 皿N大	15.0	3.0	
611	土師器 皿N大	15.2	3.5	
612	土師器 皿N大	15.2	3.0	
613	土師器 皿N大	15.5	2.8	
614	土師器 皿N大	15.6	2.9	

口径・器高はcm。()は推定。

付表15 東区SE123出土掲載遺物一覧表

No.	種 類	備 考
615	軒丸瓦	山城幡枝産。埋土
616	軒丸瓦	山城幡枝産。木枠内
617	軒丸瓦	山城幡枝産。掘形
618	軒丸瓦	山城幡枝産。掘形
619	軒丸瓦	山城幡枝産。掘形
620	軒丸瓦	山城幡枝産。埋土
621	軒平瓦	山城幡枝産。埋土
622	軒平瓦	山城幡枝産。埋土
623	軒平瓦	山城幡枝産。木枠内

版 図

報 告 書 抄 録

ふ り が な	へいあんきょうさきょうさんじょうしぼうよんちょうあと							
書 名	平安京左京三条四坊四町跡							
シ リ ーズ 名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報							
シリーズ番号	2 0 0 1 - 1 0							
編 著 者 名	上村憲章・鎌田泰知							
編 集 機 関	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所 在 地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発 行 所	財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発 行 年 月 日	西暦2003年 1 月31日							
ふ り が な 所収遺跡名	ふ り が な 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょう 平安京左京 さんじょうしぼう 三条四坊 よんちょうあと・ 四町跡・ どんげいんあと 曇華院跡	きょうとしなかぎょうく 京都市中京区 ひがしのとういんどおり 東洞院通 あねこうじひがしいる 姉小路東入 どんげいんまえちょう 曇華院前町	26100		35度 00分 23秒	135度 45分 52秒	2001年 6 月 7 日～2002 年 2 月13日	980㎡	公共施設 建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京左京 三条四坊 四町跡	都城跡	平安時代後期	井戸・Pitなど	土師器、須恵器、白色 土器、焼締陶器、瓦器、 軒丸瓦、軒平瓦、瓦類		四町は、平安時代後 期後白河天皇の皇子 以仁王の邸宅「高倉 の宮」に比定されて いる。		
曇華院跡	寺院跡	室町時代 ～江戸時代	整地層、井戸、溝、 柱跡など	土師器、須恵器、焼締 陶器、瓦器、輸入陶磁 器、瓦類、敷磚など		瑞雲山通玄寺曇華院 が幕末まであった。		

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2001-10

平安京左京三条四坊四町跡

発行日 2003年1月31日

編集行 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住 所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印 刷 三星商事印刷株式会社

住 所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961